

平成22年度 事業報告



学校法人 加計学園

建学の理念

ひとりひとりの
若人が持つ能力を
最大限に引き出し
技術者として
社会人として
社会に貢献できる
人材を養成する

目次

理事長挨拶	1
法人全般	2
岡山理科大学	17
倉敷芸術科学大学	28
千葉科学大学	37
岡山理科大学附属高等学校	45
岡山理科大学附属中学校	50
岡山理科大学専門学校	55
玉野総合医療専門学校	61
倉敷食と器専門学校	67

理事長挨拶

学校法人 加計学園 理事長・総長 加計 晃太郎



戦後、創立者加計勉は、一面の焼け野原となった広島の中で「資源の乏しい我が国の復興には教育こそ肝要」との信念のもと教育の道を志し、昭和36年に加計学園を設立しました。以来、「ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出し技術者として社会人として社会に貢献できる人材を養成する」という建学の理念のもと時代や社会のニーズを先取りした特色ある教育研究事業を展開し、現在、3大学、1高等学校、1中学校、3専門学校を擁する中四国で有数の教育研究機関へと発展して参りました。

今日、私共、教育機関を取り巻く環境は、18歳人口の減少をはじめとして、グローバル化、多様化の波にさらされており、さらに、世界的経済不況の煽りを受け、非常に厳しい状況であるといえます。しかしながら、常に時代を先取りした特色ある教育と、8設置校の多様な学校種による連携は、全国でも類を見ないものであり、これまで培ってきた伝統と資源を有機的に結合することによって、本学園独自の発展的な科学教育プログラムを実現できる機関であると自負しております。

平成22年度における新規事業としては、新たに倉敷芸術科学大学に総合医療健康センター（ヘルスピア倉敷）をオープンし、東洋医学等を取り入れた施設として地域に開放するとともに記念講演会を開催しました。

また、生命動物教育センターを設置し、好適環境水を活用した実習を開始しました。

次に、学園創立50周年事業として、記念館新築の着工、創立者の銅像制作、寄付金募集等を計画通り遂行しました。

教学関係については、各設置校とも新学科、新コースの設置、改組、定員の適正化、魅力ある学科編成に取り組みました。大学においては、リメディアル教育、初年次教育、キャリア教育等を取り入れたカリキュラム編成について検討を重ね、学士力の向上を図るとともにFD活動を強化して学生の満足度の向上に努めました。

中学校、高校においては中高一貫教育の成果が結実し、東京大学、有名大学への合格を果たしました。専門学校においては、特色ある教育の一層の充実に努めました。さらに、国際交流にも積極的に取り組み、多数の留学生を受け入れました。

学園にとって、これからの数年間が生き残りのための正念場でありますので、各設置校ともに、建学の理念のもと独自の教育研究構想の具現化に努めました。

平成22年度 事業報告

法人全般

学園事業

■ヘルスパイ倉敷

21年度に取得した、ヘルスパイ倉敷（旧サンパイ倉敷）について、改修工事を実施しました。

秋頃のオープンを目途に、サナトリウム（断食道場）や、薬湯、薬膳料理を取り入れた福利厚生施設を計画しています。

10月16日、一般を対象に見学会が開かれました。倉敷芸術科学大学顧問石原結實氏による特別講演会も開かれ、600名を超える参加者が訪れました。また、11月3日、正式にオープンし、セレモニーには政財界を中心に約300名が参加しました。

■加計学園生命動物教育センター

加計学園生命動物教育センターは、好適環境水施設、ドッグトレーニング場などを完備し、学園の設置する大学等が共同利用できる施設として設置し、22年度より運用しております。



ドッグトレーニング場



屋内大型水槽

好適環境水を利用した養殖施設が注目され、新聞、TV等、各種メディアに取り上げられました。また、施設見学には、教育関係者、地方議会等、各種団体、延べ約800名が、視察に訪れました。

■省エネルギーの推進

平成21年度より省エネルギー推進委員会を定期的に開催し、省エネルギーに対する教職員の意識向上に努めています。本年度は、この省エネルギー推進を本格化、明確な数値目標を設定し、省エネルギーに努めます。省エネルギー推進委員会については、今年度は3回開催し、積極的な意見交換がなされました。

■創立者加計勉「献花の集い」

創立者加計勉先生の三回忌となる平成22年4月30日に「献花の集い」を岡山理科大学第25号館岡山理科大学ホールにて実施し、約400名が参加しました。

■TV放映

5月末から8月にかけて、岡山放送（OHK）、沖縄放送（OTV）、日本BS放送（BS11）にて、加計グループの学園紹介がシリーズ放映されました。加計学園については、学園本部を含め、設置校の紹介が延べ21回放映されました。

■玉野市との包括連携協定

8月23日、玉野市と加計学園において、包括的な連携のもとに互いに協力し、地域社会の発展と学術の振興に寄与することを目的として、8月23日、包括連携協定を締結しました。

50周年記念事業

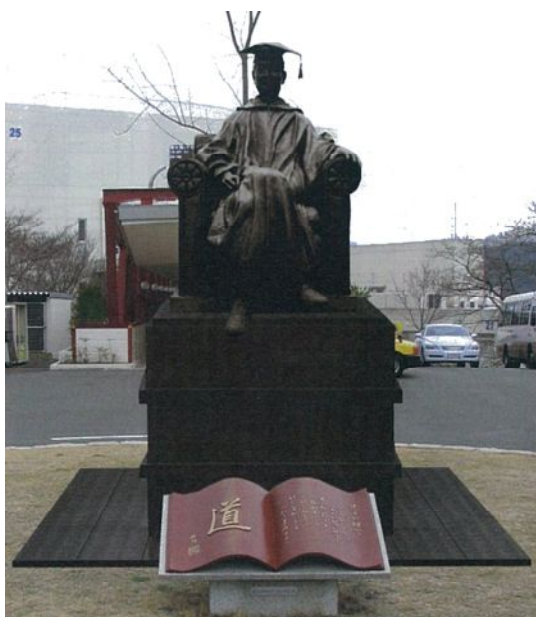
平成23年に学園創立50周年を迎えるにあたり、「創立50周年記念事業委員会」で事業内容を検討し、既に岡山理科大学において「電光掲示板の設置」、「岡山理科大学正門の設置」を実施しました。



■創立者加計勉の銅像制作

創立者加計勉の業績を称えるとともに、「建学の理念」の精神を引き継ぐ象徴として、岡山理科大学ロータリーの中心に、創立者の銅像を設置します。

50周年を迎える平成23年度の完成を目指し、倉敷芸術科学大学の蛭田二郎名誉教授が制作中です。



創立者加計勉の銅像（※イメージ）

■創立50周年記念館の建設

加計学園創立50周年記念館の建設を計画しています。（平成23年度竣工予定）

高校より強い要望があり、従来の建設予定地を変更し、高校中庭に50周年記念館を建設することとなりました。

※記念館（中央）を含めた50周年記念事業全体イメージ



予定地変更に伴い、当初計画より延べ床面積が減少し、1,400㎡の4階建となります。

■加計勉基金の創設

50周年記念事業として、新たに50周年記念加計勉基金を創設します。これは教育助成などを行うことを目的とし、加計学園の8設置校を対象とした奨学制度とします。

■出版物の作成等

平成23年発行予定の「創立50周年記念誌」の編纂を行います。同時に、映像・写真のデータベース化を図ります。

また、機関紙（50周年へGoGo!）の作成と配布を行いました。

■基金・募金事業

加計学園創立50周年記念事業計画に要する資金調達のため、平成20年度から募金を行っており、第2期募集期間（平成22年4月1日～平成24年3月31日）の募金趣意書等の作成と発送を行いました。

特命事業関係

私学経営の厳しさが増す中で多様な財源確保方策の一助とし、且つ学園組織の簡素化等に資するため特命事業として、出資会社K2ライフラボによる事業を積極的に進めるとともに企業活動を広く展開しつつ学園へ寄与するよう努めて参りました。

■主な事業

次の各種事業を積極的に展開して参りました。

①技術・研究シーズの社会還元事業の展開

- ・好適環境水事業（陸上閉鎖循環式養殖システム・海水魚淡水魚混泳化飼育水、魚体トリートメント浴用水）
- ・水質浄化事業（亜塩素酸・水族館、湖沼等）
- ・eラーニング事業（MOMOTAROシステム）
- ・化粧品開発事業（潤身シリーズ）
- ・その他の特許権、著作権に係る市場化事業

②学園業務支援事業の展開

- ・業務受託事業（水質管理事業・生命動物教育センター運営管理事業）
- ・学外実習場の提供（アクア・洋菓子製造等実習）及び実習成果物受託販売（観賞魚等）
- ・消耗品調達代行システムの導入展開
- ・印刷・製本事業

③学生・教職員、地域住民等に対する学園サービス業務の代行又は提供事業

- ・図書類、学用品等の斡旋販売
- ・外貨宅配事業
- ・レンタル事業（袴・生活用品・各種物品）
- ・各種傷害保険等保険代理店事業

④ヘルスピア倉敷等運営事業

ヘルスピア倉敷の施設整備の進展に伴い倉敷芸術科学大学との連携の下、施設の管理運営に関し教育研究施設以外の施設についての運營業務を行います。

- ・屋外レジャープール運営事業
- ・アイスアリーナ運営事業
- ・ファスティングヘルス事業（断食道場）
- ・レストラン事業
- ・スポーツ施設管理事業（テニス・フットサル・スカッシュ等）
- ・その他事業

■厚生施設利用契約（ヘルスピア倉敷）

日本私立学校振興・共済事業団と厚生施設利用契約を締結しました。

平成22年度より、私学共済加入者が私学共済より発行される補助券を利用すれば、ヘルスピア倉敷の屋外プール及びアイススケート（貸靴料別途）を無料で利用できるようになりました。



国際交流関係

本学園はグローバル化する国際社会において、諸外国との親密な連携が人材育成には不可欠であると考え、早くから国際性の涵養を教育理念の一つに掲げ、様々な取組を続けています。

本年度は、以下のような取組を行ってまいりました。

■半田山荘（迎賓館）の購入

理事長より借用していた半田山荘を正式に購入し、国際交流における迎賓館として利用しております。

■フェアウェルパーティー

7月12日、岡山理科大学スカイテラスにて、教育交流協定を締結している諸外国の学生等を招いてフェアウェルパーティーを開催いたしました。

外国人学生約70名を含む約500名が参加し、中国、韓国、スリランカ、ベトナム、ネパールの国際屋台を楽しみました。

■第1回加計勉杯日本語コンテスト

9月19日、スリランカにて、第1回加計勉杯日本語コンテストが開催されました。

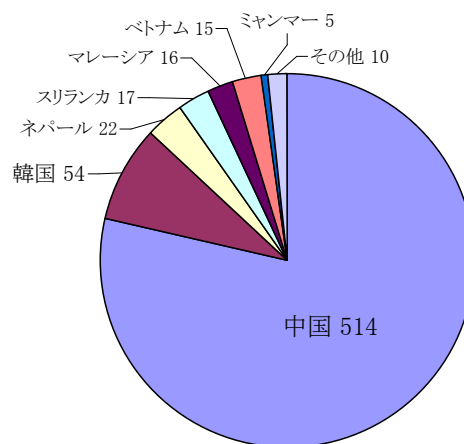
スリランカ大使館の後援のもと、加計学園主催で行われたこのコンテストに90名の応募者の中から予選を勝ち抜いた10名が出場し、優勝者には日本への往復航空券が贈られました。会場には約200名の聴衆が参集し、極めて質の高いコンテストが行われたと、各方面より高い評価を頂きました。

11月18日、優勝者となったマヒンダ高校教師ニルカ・ラトナーヤカさんが来日し、岡山理科大学第三学舎1階ホールにてスリランカ支局長と共に「スリランカってどんな国」と題したセミナーを行いました。セミナーの最後に彼女の優勝スピーチが披露され、つめかけた約150名の聴衆から大きな拍手を浴びました。また、このことが

縁となり本学園とマヒンダ高校の間に教育交流協定が締結され、新聞やテレビで大きく報道されました。

■国別留学生内訳

(平成22年5月1日現在)



総数：642（単位：人）

■海外協定校

(平成23年3月31日現在)

国名	教育交流協定校	校数
中国	南開大学、北京科技大学、雲南大学、中山大學、河南科技大学、 東北師範大学、東北師範大学人文学院、中国管理軟件学院、北京城市学院、 北京市実業職業学校、北京市民族文化芸術職業学校、北京市求实職業学校、 (留学生募集に関する提携校：内蒙古智力引進外語専修学院、 北京平成日本語学校、成都瀨川日本語学校、四川外国語学院国際教育学院、 西南交通大学外語学院国際項目部、深圳職業技術学院、明正日本語学校)	21校
韓国	慶一学園、金剛学園(永同大学、亨硯高校)、鶴山学園(東ソウル大学)、 金龍学園(徳園女子高校)(徳園芸術高校)、桂林学園(正明高校)、 清錫学園(清州大学)、純心教育財団(純心高校)、湖西学園(湖西大学)、 江原大学、金泉大学、大田保健大学、韓国防災協会、全南女子商業高等学校	13校
台湾	大華技術学院、明新科技大学、南台科技大学、稲江科技暨管理学院、 稲江高級商業職業学校、金甌女子高級中学、致理技術学院、 海山高級工業職業学校、治平高級中学、財団法人崇右技術学院	10校
アメリカ	ライト大学、ハワイ大学、フィンドリー大学、シェネンドーア大学、 グアム大学	5校
イギリス	サンダーランド大学、オックスフォード大学、 ケンブリッジ大学キャベンディッシュ研究所、ダービー大学	4校
ブラジル	パラナ・カトリカ大学、パラナ連邦大学、バンデイランテス高校	3校
スリランカ	ワヤンバ・ロイヤルカレッジ、マリヤデワ・カレッジ、 マリヤデワ・バーリカウィッダヤーラヤ	3校
オーストリア	ヨハネス・ケプラー大学、リンツ工科造形芸術大学	2校
シンガポール	ニー・アン・ポリテクニク、シンガポール・ポリテクニク	2校
ベルギー	ブリュッセル自由大学、アントワープ王立美術アカデミー	2校
フランス	リヨンI大学	1校
カナダ	モホーク大学	1校
タイ	パトゥムワン・デモンストレーション・スクール	1校
フィリピン	フィリピン国立大学ロスバニニョス校	1校
コスタリカ	コスタリカナショナル大学	1校
オーストラリア	アニマルインダストリーズリソースセンター	1校

■教育交流協定校との交流プログラム

国名	計画	実行
アメリカ	ライト大学仕事体験生4名	4～翌年 3月
韓 国	湖西大学単位互換履修生1名	9月 ～翌8月
台 湾	致理技術学院科目等履修生計4名（前期と後期各2名）	4～翌年 3月
台 湾	致理技術学院学生訪日研修団 20名	5.17 ～5.26
台 湾	派遣：南台科技大学 5名	8.22 ～9.5
アメリカ	フィンドリー・ライト大学学生訪日研修団来学 20名	6.26 ～7.21
アメリカ	派遣：ライト大学8名、 フィンドリー大学8名 学生研修団	8.8～30 8.17 ～9.9
ブラジル	パナ連邦大学・パラカトリカ大学 学生訪日研修団計12名	6.26 ～7.21
ブラジル	派遣：パナ連邦大学・パラカトリカ大学へ学生研修団 3名	8.8 ～8.30
韓 国	慶一学園生徒研修団 31名	7.20 ～7.23
中 国	北京城市学院・北京科技大学 学生訪日研修団29名	7.26 ～8.4
中 国	成都瀨川日本語学校学生加計 学園三大学見学ツアー13名	9.30 ～10.7
韓 国	全南女子商業高校訪日研 修団28名	7.13～ 7.17
中 国	四川外国語学院学生訪日研修 団15名	2.9～ 18

■その他

計画	実行
海外支局長会議 1回目	4月6～7日
2回目	11月18～19日
(中国) 江蘇省前教育長一行 来学13名	11.30
(米国) スミス・アガデミ来学12名	11.5～11.19
(タイ) カセサト大学学部長一行 来学6名	3.2～3.5
(タイ) 泰日工業大学副学長来 学	3.9～10
(中国) 波田学長が北京科技大 学を訪問、調印式出席	12.1～4
(米国) フィンドリー大学学長 来学1名	10.25

人事について

■事務職員人事

平成22年度の人事異動に伴い、前法人本部事務局長の内田修心氏は、千葉科学大学事務局長に就任し、新たに渡邊良人氏が法人本部事務局長に就任、岡山理科大学事務局長と兼務いたします。

また、学園出納局長に、元倉敷芸術科学大学事務局長の岡本繁通氏が就任いたしました。

■法人顧問

平成22年5月1日より、学園の法人顧問として、社会教育家で、ライフハーモニー教育研究所所長の位田隆久氏が就任いたしました。

学園の概況

■学園の沿革（抜粋）

- 昭和30年 4月 加計学園の出発点ともなった広島英数学館を、加計勉が創立
- 昭和36年 9月 **学校法人加計学園**認可、理事長に加計勉就任、岡山電機工業高等学校設置認可
- 昭和37年 4月 **岡山電機工業高等学校**開校（全日制） 初代校長に神崎栄一郎就任
- 昭和39年 1月 岡山理科大学設置認可
岡山理科大学設置認可にともない、岡山電機工業高等学校を**岡山理科大学附属高等学校**と改称
- 4月 **岡山理科大学**開学（理学部） 初代学長に加計勉就任
- 昭和42年 4月 岡山理科大学附属高等学校第2代校長として、内藤一人就任
- 昭和44年12月 真庭郡川上村に岡山理科大学蒜山研究所、蒜山学舎を開設
- 昭和48年10月 学校法人加計学園の所在地が岡山市の住居表示変更により、岡山市理大町と町名変更
- 昭和49年 4月 岡山理科大学大学院理学研究科修士課程を設置
岡山理科大学附属高等学校第3代校長として中尾寿夫就任
- 昭和50年 4月 岡山高等建築専門学院設置認可
5月 **岡山高等建築専門学院**開校（建築学科夜間部定時制） 初代校長に中尾寿夫就任
- 昭和51年 4月 岡山高等建築専門学院、専修学校法施行により**岡山高等建築専門学校**と改称
- 昭和53年 4月 岡山理科大学大学院理学研究科に博士課程（後期）を設置
- 昭和54年 4月 岡山理科大学大学院理学研究科修士課程に機械理学専攻、電子理学専攻を増設
- 昭和55年 4月 岡山理科大学第2代学長に、奥田毅就任
岡山理科大学附属高等学校第4代校長として、松本卓三就任
岡山高等建築専門学校昼間部を増設、第2代校長として片山誠二就任
- 7月 寄附行為変更により総長制度認可、初代総長に加計勉就任
- 昭和59年 4月 岡山理科大学第3代学長に、黒谷寿雄就任
- 昭和61年 4月 岡山理科大学工学部設置
岡山理科大学附属高等学校第5代校長として、三宅寛就任
岡山高等建築専門学校を**岡山理科大学専門学校**と改称
- 平成 2年 4月 岡山理科大学第4代学長に、加計勉就任
岡山理科大学大学院の理学研究科を改組し、工学研究科を設置
- 平成 4年 1月 岡山理科大学附属高等学校第6代校長として、加計晃太郎就任
4月 岡山理科大学附属高等学校第7代校長として、渡辺己巳生就任
- 平成 6年12月 倉敷芸術科学大学設置認可 初代学長に谷口澄夫就任
- 平成 7年 4月 **倉敷芸術科学大学**開学
- 平成 9年 4月 岡山理科大学総合情報学部を増設
12月 玉野看護福祉総合専門学校設置認可
- 平成10年 4月 **玉野看護福祉総合専門学校**を開校 初代校長に金政泰弘就任
岡山理科大学附属高等学校第8代校長として、三木輝知就任
岡山理科大学専門学校第3代校長として、村上侑就任
- 平成11年 4月 倉敷芸術科学大学第2代学長に土井章就任
倉敷芸術科学大学大学院開設
- 平成12年 4月 倉敷芸術科学大学教養学部を国際教養学部に変更

- 岡山理科大学附属高等学校通信制課程普通科を設置
- 平成13年 1月 学校法人加計学園第2代理事長・総長に加計晃太郎就任
- 4月 岡山理科大学大学院修士課程に総合情報研究科設置
倉敷芸術科学大学大学院芸術研究科に博士（後期）課程設置
- 平成13年 4月 倉敷芸術科学大学留学生別科を設置
- 玉野看護福祉総合専門学校を、**玉野総合医療専門学校**に名称変更
- 岡山理科大学第5代学長として、山村泰道就任
- 9月 岡山理科大学附属中学校設置認可
- 平成14年 4月 倉敷芸術科学大学大学院（通信制）設置
- 岡山理科大学附属高等学校第9代校長として、北尾正幸就任
- 岡山理科大学専門学校第4代校長として、逢坂一正就任
- 岡山理科大学附属中学校**開校 初代校長として、善木道雄就任
- 平成15年 4月 倉敷芸術科学大学産業科学技術学部（通信教育課程）、国際教養学部（通信教育課程）を設置
- 11月 千葉科学大学設置認可
- 平成16年 3月 倉敷芸術科学大学専門学校設置認可
- 4月 岡山理科大学第6代学長に宮垣嘉也就任
- 倉敷芸術科学大学生命科学部を設置
- 倉敷芸術科学大学国際教養学部募集停止
- 倉敷芸術科学大学国際教養学部（通信教育課程）募集停止
- 千葉科学大学**開学 初代学長に平野敏右就任
- 倉敷芸術科学大学専門学校**開校 初代校長に岡本繁通就任
- 平成17年 4月 倉敷芸術科学大学第3代学長に添田喬就任
- 岡山理科大学附属高等学校第10代校長に橋爪道彦就任
- 岡山理科大学附属中学校第2代校長に新倉正和就任
- 岡山理科大学専門学校第5代校長に圓堂稔就任
- 玉野総合医療専門学校第2代校長に岡田茂就任
- 平成19年 4月 倉敷芸術科学大学専門学校第2代校長に伊藤敏夫就任
- 平成20年 4月 千葉科学大学大学院薬科学研究科、危機管理学研究科設置
- 倉敷芸術科学大学専門学校を**倉敷 食と器 専門学校**に名称変更
- 平成21年 4月 岡山理科大学大学院工学研究科修士課程知能機械工学専攻設置
- 岡山理科大学大学院工学研究科修士課程福祉システム工学専攻募集停止
- 倉敷芸術科学大学産業科学技術学部コンピュータ情報学科（通信教育課程）をIT科学科（通信教育課程）に名称変更
- 倉敷芸術科学大学留学生別科神戸留学生別科設置
- 千葉科学大学危機管理学部動物・環境システム学科、医療危機管理学科設置
- 千葉科学大学危機管理学部防災システム学科、環境安全システム学科募集停止
- 5月 千葉科学大学薬学部生命薬科学科設置届出
- 千葉科学大学危機管理学部航空・輸送安全学科設置届出
- 8月 倉敷芸術科学大学産業科学技術学部IT科学科（通信教育課程）募集停止
- 10月 千葉科学大学大学院薬科学研究科博士課程（後期）設置認可
- 12月 千葉科学大学大学院危機管理学研究科博士課程（後期）設置認可
- 平成22年 3月 倉敷芸術科学大学産業科学技術学部生命化学科、起業学科（通信教育課程）を廃止
- 倉敷芸術科学大学国際教養学部（教養学科、起業学科、起業学科（通信教育課程））を廃止

平成22年 4月 千葉科学大学薬学部生命薬科学科設置
千葉科学大学危機管理学部航空・輸送安全学科設置
千葉科学大学薬学部薬科学科、動物生命薬科学科募集停止
千葉科学大学大学院薬科学研究科修士課程募集停止
千葉科学大学大学院薬科学研究科博士課程（後期）、危機管理学研究科博士課程（後期）設置
千葉科学大学第2代学長に赤木靖春就任
玉野総合医療専門学校第3代校長に高井研一就任
倉敷 食と器 専門学校第3代校長に川上雅之就任
岡山理科大学工学部建築学科設置届出
岡山理科大学大学院工学研究科修士課程生体医工学専攻設置届出
岡山理科大学大学院工学研究科修士課程建築学専攻設置届出
倉敷芸術科学大学産業科学技術学部経営情報学科届出
平成22年 6月 倉敷芸術科学大学生命科学部健康医療学科設置届出
平成23年 3月 岡山理科大学大学院工学研究科福祉システム工学専攻を廃止
岡山理科大学工学部福祉システム工学科を廃止

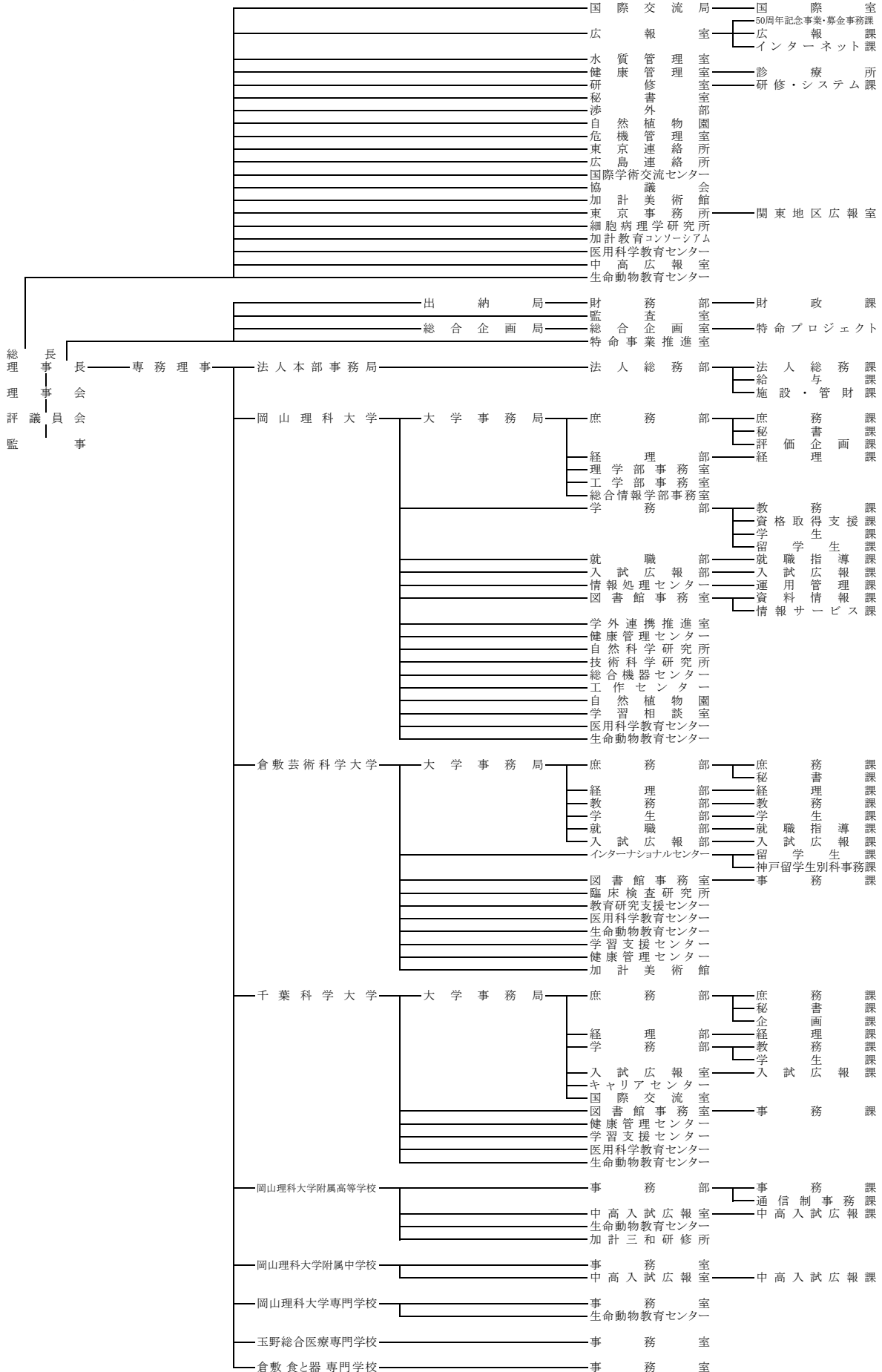
■設置校概況

平成22年5月1日現在

区 分	学生・生徒数		教職員数		
	定員	現員	教育職員	事務職員	計
岡山理科大学 (岡山市北区理大町1-1)	5,404	5,350	272	196	468
大学院	384	336		(本部) 83 (理大) 113	
理学研究科	191	188			
工学研究科	137	109			
総合情報研究科	56	39			
学部	5,020	5,014			
理学部	2,035	2,209			
工学部	1,755	1,653			
総合情報学部	1,230	1,152			
倉敷芸術科学大学 (倉敷市連島町西之浦2640)	2,822	1,812	122	55	177
大学院	126	64			
芸術研究科	52	27			
産業科学技術研究科	44	21			
人間文化研究科	30	16			
学部	1,676	1,711			
芸術学部	420	426			
産業科学技術学部	400	338			
生命科学部	856	947			
大学院(通信制)	120	14			
芸術研究科(修士課程)	20	4			
産業科学技術研究科(修士課程)	40	1			
人間文化研究科(修士課程)	60	9			
学部(通信教育課程)	900	23			
産業科学技術学部(通信教育課程)	900	23			
千葉科学大学 (千葉県銚子市潮見町3)	2,068	1,642	109	51	160
大学院	38	47			
薬科学研究科	25	29			
危機管理学研究科	13	18			
学部	2,030	1,595			
薬学部	1,045	775			
危機管理学部	985	820			
岡山理科大学附属高等学校 (岡山市北区理大町1-1)	2,100	1,558	75	17	92
全日制	1,500	1,254			
通信制(1~3年定員:600名)	600	304			
岡山理科大学附属中学校 (岡山市北区理大町1-1)	240	159	15	3	18
岡山理科大学専門学校 (岡山市北区半田町8-3)	500	391	12	11	23
工業専門課程(建築)	150	94			
商業実務専門課程(映像情報)	0	0			
文化・教養専門課程(動物看護, トリミング, ト	350	297			
文化・教養一般課程(トリミング, トッグ, アケア)	0	0			
玉野総合医療専門学校 (玉野市築港1丁目1-20)	560	468	32	7	39
医療専門課程(保健看護、理学療法、作業療	480	411			
教育・社会福祉専門課程(介護福祉)	80	57			
倉敷 食と器 専門学校 (倉敷市連島町西之浦2640)	200	97	7	4	11
衛生専門課程(高度調理、高度製菓)	160	90			
文化・教養専門課程(器デザイン)	40	7			
合 計	13,894	11,477	644	344	988

※別科、専攻科等除く

■事務組織図（平成22年5月1日）



財務関係

■資金収支計算書

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

収入の部 (単位：円)

科 目	金 額
学生生徒等納付金収入	14,928,169,778
手数料収入	248,222,645
寄付金収入	91,207,725
補助金収入	2,593,488,962
資産運用収入	173,418,212
資産売却収入	200,000,000
事業収入	122,933,738
雑収入	316,971,883
借入金等収入	801,950,000
前受金収入	2,351,904,450
その他の収入	1,321,335,541
資金収入調整勘定	△ 2,991,558,274
前年度繰越支払資金	20,400,535,738
計	40,558,580,398

支出の部 (単位：円)

科 目	金 額
人件費支出	11,189,620,970
教育研究経費支出	3,864,254,231
管理経費支出	1,217,498,673
借入金等利息支出	169,813,684
借入金等返済支出	997,095,400
施設関係支出	911,961,201
設備関係支出	520,330,160
資産運用支出	266,654,774
その他の支出	1,683,328,118
資金支出調整勘定	△ 562,323,664
次年度繰越支払資金	20,300,346,851
計	40,558,580,398

■消費収支計算書

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

消費収入の部 (単位：円)

科 目	金 額
学生生徒等納付金	14,928,169,778
手数料	248,222,645
寄付金	137,010,793
補助金	2,593,488,962
資産運用収入	173,418,212
事業収入	111,373,755
雑収入	316,971,883
帰属収入合計	18,508,656,028
基本金組入額合計	△ 785,006,006
消費収入の部合計	17,723,650,022

消費支出の部 (単位：円)

科 目	金 額
人件費	11,189,620,970
教育研究経費	5,825,927,126
管理経費	1,727,353,863
借入金等利息	169,813,684
資産処分差額	63,915,282
徴収不能引当金繰入額等	22,501,923
消費支出の部合計	18,999,132,848
当年度消費支出超過額	1,275,482,826
前年度繰越消費支出超過額	8,047,901,670
翌年度繰越消費支出超過額	9,323,384,496

■貸借対照表（平成23年3月31日）

資産の部 (単位：円)

科 目	金 額
固定資産	61,072,440,943
有形固定資産	56,143,112,298
その他の固定資産	4,929,328,645
流動資産	21,809,902,768
資産の部合計	82,882,343,711

負債の部 (単位：円)

科 目	金 額
固定負債	11,701,616,115
流動負債	3,863,705,679
負債の部合計	15,565,321,794

基本金の部 (単位：円)

科 目	金 額
基本金の部合計	76,640,406,413

消費収支差額の部 (単位：円)

科 目	金 額
翌年度繰越消費支出超過額	△ 9,323,384,496
消費収支差額の部合計	△ 9,323,384,496
科 目	金 額
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	82,882,343,711

■財産目録（平成23年3月31日）

(単位：円)

科 目	金 額
一資産額	
(一) 基本財産	60,857,680,473
1. 土地	15,851,455,923
借地権	388,140,000
2. 建物	27,298,564,661
(1)校舎	21,438,947,994
(2)図書館	386,321,015
(3)体育館	2,461,356,293
(4)寄宿舎	376,643,844
(5)倉庫	23,429,328
(6)その他	2,611,866,187
3. 建設仮勘定	88,097,500
4. 構築物	1,906,252,622
5. 図書	6,560,644,735
6. 教具・校具・備品	4,429,720,584
7. 車両運搬具	8,376,273
8. 積立金	2,126,428,175
9. 特定資産	2,200,000,000
(二) 運用財産	22,024,663,238
1. 預金、現金	20,300,346,851
2. 出資金	75,959,400
3. 有価証券	960,609,833
4. 未収金	392,768,712
5. 仮払金	53,143,956
6. 差入保証金	138,801,070
7. 前払金	100,598,306
8. 貯蔵品	2,435,110
合 計	82,882,343,711
二負債額	
1. 固定負債	11,701,616,115
(1)長期借入金	10,311,812,700
(2)学校債	6,660,000
(3)退職給与引当金	1,383,143,415
2. 流動負債	3,863,705,679
(1)短期借入金	519,748,400
(2)学校債	3,980,000
(3)未払金	440,044,302
(4)前受金	2,351,904,450
(5)預り金	519,300,986
(6)仮受金	28,727,541
合 計	15,565,321,794

■財務比率

消費収支計算書及び貸借対照表に基づく財務比率について、下表で本学の経年比率を示しました。

区 分		19年度	20年度	21年度	22年度	
分類	比 率	算式 (×100)				
貸 借 対 照 表	消費収支差額構成比率	$\frac{\text{消費収支差額}}{\text{総 資 金}}$	△6.4%	△7.9%	△9.5%	△11.2%
	基本金比率	$\frac{\text{基 本 金}}{\text{基本金要組入額}}$	86.5%	87.0%	86.7%	87.5%
	固定比率	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{自 己 資 金}}$	93.6%	92.2%	92.0%	90.7%
	固定長期適合率	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{自己資金+固定負債}}$	79.4%	78.5%	78.3%	77.3%
	流動比率	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}}$	568.0%	553.7%	473.1%	564.5%
	前受金保有率	$\frac{\text{現 金 預 金}}{\text{前 受 金}}$	840.0%	837.6%	788.5%	863.1%
	総負債比率	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{総 資 産}}$	18.8%	18.7%	19.6%	18.8%
	負債率	$\frac{\text{総負債-前受金}}{\text{総 資 産}}$	16.2%	15.9%	16.5%	15.9%
	基本金実質組入率	$\frac{\text{自 己 資 金}}{\text{基本金要組入額}}$	80.2%	79.3%	77.5%	76.9%
消 費 収 支 計 算 書	人件費比率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	60.6%	62.6%	64.1%	60.5%
	教育研究経費比率	$\frac{\text{教 育 研 究 経 費}}{\text{消 費 支 出}}$	30.2%	29.8%	29.7%	30.7%
	管理経費比率	$\frac{\text{管 理 経 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	8.6%	9.6%	9.2%	9.3%
	消費支出比率	$\frac{\text{消 費 支 出}}{\text{帰 属 収 入}}$	101.1%	105.6%	106.2%	102.6%
	【経常経費依存率】	$\frac{\text{消 費 支 出}}{\text{学生生徒等納付金}}$	122.6%	131.3%	133.8%	127.3%
	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	82.5%	80.5%	79.4%	80.7%
	寄付金比率	$\frac{\text{寄 付 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	0.8%	1.0%	0.9%	0.7%
	補助金比率	$\frac{\text{補 助 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	11.5%	12.7%	14.0%	14.0%
	基本金組入率	$\frac{\text{基 本 金 組 入 額}}{\text{帰 属 収 入}}$	0.6%	0.9%	1.4%	4.2%

■国庫補助金等

設置校名	①	②	③	(単位：千円)		
	経常費補助金	大型機器補助金	G P等選定事業	その他国庫補助金	地方公共団体補助金	合計
岡山理科大学	1,036,424	17,796	141,125	36,540	547	1,232,432
倉敷芸術科学大学	441,610	5,813	49,337	1,000	179	497,939
千葉科学大学	348,306	2,969	31,621	3,060	129	386,085
岡山理科大学附属高等学校				11,353	379,515	390,868
岡山理科大学附属中学校					57,567	57,567
岡山理科大学専門学校					356	356
玉野総合医療専門学校					28,038	28,038
倉敷食と器専門学校					203	203
合計	1,826,340	26,578	222,083	51,953	466,534	2,593,488

①経常費補助金・・・私立大学等経常費補助金（一般補助、特別補助）

②大型機器補助金・・・私立学校施設整備費補助金（私立学校教育研究装置等施設整備費（私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費））及び私立大学等研究設備整備費補助金（私立大学等研究設備等整備費）

③G P等選定事業・・・大学改革推進等補助金（戦略G P、教育G P等）、科学技術総合推進費補助金等、文部科学省が選定し、支援を行う補助事業

■受託研究・共同研究・科学研究費補助金

設置校等名	受託研究	共同研究	科学研究費補助金	
			件数	補助金額
岡山理科大学	36 件	28 件	48 件	104,900 千円
理学部	12	11	13	15,980
工学部	16	12	22	39,340
総合情報学部	5	3	11	45,500
附属施設	3	2	1	3,380
その他			1	700
倉敷芸術科学大学	7	6	6	8,190
芸術学部	4	2	2	2,210
産業科学技術学部		4	2	3,120
生命科学部	3		2	2,860
千葉科学大学	4		19	30,530
薬学部	3		11	19,350
危機管理学部	1		8	11,180
岡山理科大学専門学校	3			
合計	50	34	73	143,620

平成22年度 事業報告



理学、工学、情報科学のキーを駆使し、あらゆる学際領域を探索。地球を視野に高度なサイエンスを創造する。



建学の理念に根ざした人材養成を行うため、学部・学科のあり方や事務組織の体制を改革できた。リメディアル教育（高大接続教育）、初年次教育（動機付け）、キャリア教育（社会人力の養成）、基礎学力の教育などのカリキュラムを検討し、実行する組織として教育開発支援機構を設置した。なお、22年度はカリキュラムの検討を中心課題とし、新カリキュラムの実施は23年度より開始する。高大連携、大大連携、社会連携を推進するとともに、積極的に競争的外部資金を獲得することができた。事務組織は教務部と学生部を合併して学務部とし、学生サービスの一元化をはかった。また、庶務部に評価企画課を新設し、大学の現状把握と評価を行い、将来計画を立案することができた。

岡山理科大学 学長 波田 善夫

教育の充実

■ 学士課程教育の構築

中央教育審議会答申に基づいた学士課程教育の充実を図るため、講義回数15回を確保した上で、定期試験期間を従来通り2週間確保するために学期を下記期間に変更し、教育を行いました。

前期：4月1日～9月10日

後期：9月11日～翌年3月31日

■ 教育開発支援機構の設置

本学の建学の理念に沿って、共通教育および初年次教育の充実ならびに教育改善を継続的に行うため、本年4月に教育開発支援機構を設置しました。

■ 日本マレーシア高等教育大学連合プログラム等

日本マレーシア高等教育大学連合プログラム（JAD）（3年次編入）による留学生4名を受け入れると共に、JADプログラム留学生を積極的に受け入れるため、本学大学院生5名をマレーシアに派遣し、基礎教育の補助と留学予定学生との交流を深めました。

また、JADのHELP3後継プログラムの一環で、マレーシア人教員を本学に受け入れ、授業参観を実施しました。

■ 3つの方針

中央教育審議会答申の3つの方針である、「学位授与の方針=ディプロマポリシー」、「教育課程編成・実施の方針=カリキュラムポリシー」、「入学者受入の方針=アドミッションポリシー」を学部・学科・センターごとに定め、冊子およびホームページで公表しました。

■ 大学評価に対する改善報告書

平成18年度の大学基準協会による大学評価結果について、提言（助言）に対する改善報告書を平成22年7月に提出しました。その結果、「本学の改善への取り組み状況は確認できる」との評価を受けました。

■ 自己点検評価

自己点検評価を実施する上で基となる、理念・目的や大学の関連データ等を作成しました。

■ 教員免許更新講習

免許更新制の実施に伴い、より充実した内容での教員免許更新講習を開設しました。

受付期間：平成22年5月10日

～6月11日（17:00）

受付方法：Webによる受付

講習期間：

学内講習：平成22年8月1日～5日

屋久島講習：平成22年12月24日～27日

学内講習科目：

必修科目「教育の最新事情」

（定員100名、参加42名）

選択科目「教師のための理科教育」

（定員40名 理科、参加14名）

「教師のための数学」

（定員40名 数学、参加19名）

「教師のための先端科学技術体験」

（定員20名 技術・工業、参加11名）

屋久島講習科目：

選択科目「屋久島の自然観察実習」

（定員20名 理科・他、参加8名）

■ 博物館学芸員養成課程の充実

博物館法施行規則の改正及び博物館実習ガイドラインの策定に伴う平成24年度からの改正点に対応するため、「博物館実習」を見直し、より充実した内容とするための準備を行いました。

文部科学省選定事業

■ 社会連携研究推進事業「地域社会とのコラボレーションによるQOL向上の一体的アプローチ」

工学研究科の金枝敏明教授を研究代表者として、平成18年度から新規5年計画で開始し、本年度が最終年度となり、最終評価でA評価を受けました。

■ 理科大学発！科学ボランティアリーダー

平成20年度「質の高い大学教育プログラム」で選定された本事業は、3年間の補助期間で本年度終了しました。「科学ボランティアセンター」を設け、学生が科学・工作教室の講師等として、児童生徒の理工系離れの克服および市民の科学技術リテラシー向上に積極的に貢献する科学ボランティアリーダーを養成する取組を行いました。

事業の中心となった教員グループ（高原、滝澤、山口、小林秀、猪口の5名）は「科学ボランティアの人材養成と地域連携による科学理解増進」の功績があったとして、平成23年度文部科学大臣表彰科学技術賞理解増進部門を受賞しました。

■ 科学Tryアングル岡山

平成20年度「戦略的大学連携支援事業」で選定された取組で、岡山の主要3都市（岡山、倉敷、津山）に位置する自然科学系大学、高専（岡山理科大学、倉敷芸術科学大学、岡山大学、津山工業高等専門学校）、研究所が連携し、それぞれの特徴と教育研究資源を集結して、科学による地域の活性化に挑戦する取組であり、連携校の本学に「連携教育推進センター岡山理科大サテライトオフィス」を設け、3年間の補助期間の最終年度を迎えました。



■おかやま医療機器開発プロフェッショナル

平成20年度「科学技術振興調整費」で選定された工学部生体医工学科を中心とし、医療機器開発のスペシャリストを養成するプログラムです。



医療機器の製品化には安全性試験、動物実験、臨床実験、製造承認申請業務など特有の開発ステージがあり、各業務に精通したスペシャリストが必要です。医療機器開発に意欲のある地域中小企業の開発者を対象に必要な知識・技能を教授し、医療機器産業の創出・育成を産業政策の柱とする岡山県と協力して、地域の新産業創出に不可欠な人材を5年間で45人の養成を目標とする取組で、本年度は補助期間5年計画の3年目が終了しました。中間評価ではA評価を受けました。

■グリーン元素科学

平成21年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に「グリーン元素科学」が採択されました。



文部科学省は国の第3期科学技術基本計画の一環として「元素戦略プロジェクト」を進めており、「環境問題と希少元素資源の枯渇に対処するための研究」というテーマのもとに共同で研究するための組織が「グリーン元素科学」です。

元素戦略とは、元素の特性を生かして、豊富で無害な元素を組み合わせ、希少元素の代替物質を作り出す研究で、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（研究拠点を形成する研究）の支援のもと、本学の関連分野の研究者が協力して研究するために、共同研究は「汎用元素による新機能創出」、「元素のハイブリッド化による新物質創出」、「生体物質を利用した省元素資源」の3つの研究テーマに分かれています。本年度は5年計画の2年目が終了しました。

■「岡山オルガノン」の構築

平成21年度「戦略的連携支援事業」に『「岡山オルガノン」の構築』が採択されました。



大学コンソーシアム岡山の提案により、本学を代表校として岡山県内の15大学が連携し、学士力及び社会人基礎力向上と地域発信力の向上を目指した取組です。

単位互換を活用した教養教育の充実、実践的キャリア教育の共同実施、地域と一体となった人材育成を行うものとなっています。eラーニングシステムなど各大学の特色を共有することで地域全体としての教育力を向上することが期待されます。本年度は3年計画の2年目が終了しました。

平成22年度 新規採択

■大学生の就業力育成支援事業に工学部申請採択

工学部が5月末に申請していた「ものづくり教育と地域連携による就業力育成」が10月に採択、12月から事業開始しました。代表者は工学部長で、①ものづくり就業力育成科目の充実化と体系化、②技術者バンクの構築による地域産学官連携、③キャリアサポートフォリオ作成システムによる学生主体学習を軸としています。

産官学連携

■外部資金の獲得

科学研究費補助金等の競争的研究費、共同研究や受託研究等の外部研究資金の獲得を推進します。外部資金に関する情報収集に努め、説明会等を開催し、外部資金の獲得を目指しました。

■公的研究資金不正使用防止

公的研究資金の不正使用防止のため、研修会や物品検収を行います。研修会で説明を行い、ホームページにマニュアルを掲載しました。マニュアルに記しているように補助金で購入した物品の検収を行って不正防止に努めました。

■知的財産化

1) 発明の知的財産化

研究者の発明を知的財産化することを目指し、職務発明委員会等を通じて職務発明の発掘に努め、6回実施しました。

2) 特許セミナー

特許セミナーを年数回開催し、研究者および学生が研究した成果の知的財産化を推進するため、本年度は2回開催しました。

■地域産業界との交流

地域産業界との交流を推進しました。

1. 岡山県主催の「100研究室訪問」に協力し研究室及び研究機器等を外部へ公開
2. 岡山県（産学官連携推進会議）が主催する「100社訪問」に参加
3. (株)日本政策金融公庫岡山支店中小企業事業主催のビジネス交流会参加
4. おかやま信用金庫、備前信用金庫主催（新規）のビジネス交流会参加
5. 岡山市（岡山工業会）のビジネス交流会参加
6. 岡山市商工会議所のビジネス交流会参加
7. 協定を締結した団体との交流の実施

■委託公開講座

岡山県からの委託公開講座（連携講座）を開講しました。

■外部団体の役員等としての参画

岡山県、および地方公共団体の20以上の委員会等に継続して役員として参画する予定です。各委員会を通じて、産業界や官公庁との連携により、社会貢献に努めました。

■研究成果の社会への発表について

1. 発表会の開催と参加

OUSフォーラム2010を11月に岡山市内で開催し、今年度で10回目を迎えました。その他に東京等で開催される研究発表会に研究シーズの公開をしました。

1) 「OUSフォーラム2010の開催」

(11月24日；岡山（於）)

2) JST科学技術振興機構「新技術説明会」での発表

(7月；8月東京（於）)

3) 「岡山リサーチパーク研究・展示発表会」

(平成22年8月；岡山（於）)

2. 広報活動の実施

本学の研究成果を社会に周知することを目的に冊子「リエゾン」第2号を発行し広く配布しました。またホームページの運営等を通じ積極的に、研究内容の発信に努めました。

22年度新設学科・コース

■理学部基礎理学科

「総合理学コース」「理数系教員コース」開設
基礎理学科の利点を残しながら、その特徴がより目に見えるように2つのコースを開設しました。

「総合理学コース」では、基礎理学を軸に、数学・情報・物理・化学・生物・地学・現代教育の各分野を学びます。

「理数系教員コース」では、附属中学・高校などと協力し、生徒との触れ合いを重視した体験型学習を積極的に取り入れ、理数系分野での実践的な能力を身につけた教員の養成を目指します。

■工学部機械システム工学科

「航空・宇宙コース」開設

自動車産業をはじめとするほとんどの製造業で必要な機械工学技術を体系的に学ぶ「機械（ME）コース」に加え、航空・宇宙分野における最先端技術の一端を学ぶ「航空・宇宙コース」を新たに開設し、両コースを網羅・横断的に学習する「機械システム（MS）コース」（JABEE適合コース）と合わせて3コース体制となりました。

■工学部知能機械工学科

「ロボットシステムコース」「アミューズメント工学コース」開設

知能機械工学科に、知能情報工学を中心とするソフトウェア、ユニバーサルデザインに基づく人間中心設計を学び、人間親和型ロボットを設計・創造できる技術者の養成を目指す「ロボットシステムコース」と、アミューズメント分野での機械系技術者や生活の質向上に役立つ体感プログラム等に用いられる新規ヒューマンインターフェースを設計・創造できる技術者の養成を目指す「アミューズメント工学コース」の2つのコースを開設しました。

■留学生別科 開設

本学または他の日本の大学での入学を希望する外国人で、大学の講義を理解する上で日本語の能力が十分でない者に対し、日本語を教授し、併せて日本文化に関する理解を深めさせることを目的とする、岡山理科大学留学生別科を開設しました。

申請・届出関係

■工学部建築学科 届出

総合情報学部にある建築学科を工学部に移設するため、工学部建築学科設置届を提出しました。

(H22. 4. 28届出)

建築学科は建築工学コースと住デザインコースの選択制とし、学生の興味と適性を重視した教育を行います。具体的には、安心・安全かつ快適な建築と町づくりのために、倫理に則って行動し社会貢献のできる人材を養成し、地域の社会的ニーズに応えることのできる人材の養成、ユニバーサルデザインなどを通して高齢者社会等に安心と安全を提供できる人材の養成、構造設計等を通して安全な建築を提供する人材の養成、省エネルギー等の地球環境を考え快適で環境負荷の少ない構造物を造ることのできる人材の養成を目指します。

特に、新たな文化や技術を生み出す創造性豊かな能力の育成を重視します。

なお、既設の総合情報学部建築学科は、平成23年度より募集停止とし、在学生の卒業をもって廃止となります。(H22. 4. 28文部科学省届出)

■工学研究科建築学専攻 届出

工学部建築学科を基礎とする、大学院工学研究科建築学専攻(修士)設置届を提出しました。

(H22. 4. 28届出)

建築学の基本となる「計画学」「構造工学」「環境設備工学」の3つの分野において、先進的な企画・設計・開発・運用に挑戦する能力を伴った高度な専門性を持つアーキテクトやエンジニア及び研究・開発者の育成、また、1つの分野に特化せず全般に亘り幅広い知識を有し、新たな建築方法の開発や新しい建築材料の生産・開発を目指す実践的で高度なエンジニアや管理者、研究者の育成を目指します。(H22. 4. 28文部科学省届出)

■工学研究科生体医工学専攻 届出

工学部生体医工学科を基礎とする大学院工学研究科生体医工学専攻(修士)設置届を提出しました。

(H22. 4届出)

生体医工学がカバーする主要な3分野(1) 遺伝子・生物学・人間環境工学、(2) バイオメカニクス・生体材料、(3) 電気・電子・情報に関する高度な専門知識と工学的研究開発手法を習得させ、関連する基礎研究や医療機器の研究開発ができる研究者や専門技術者の育成、生体医工学分野の総合的な工学的知識を有し臨床医学分野において診断・治療方針の策定に貢献できる臨床工学技術の研究者や専門技術者の育成を目指します。

(H22. 4. 28文部科学省届出)

■理学部化学科 コース制導入

理学部化学科に、化学やバイオの力で生活に役立つ物質を作ることを目的とした「バイオ有機薬品コース」、環境に携わるスペシャリストを育てる「環境分析コース」、人類のエネルギー問題を

化学の力で解決することをめざす「新エネルギーコース」の3コースの開設準備を行いました。

■教免課程認定申請

工学部建築学科、工学研究科建築学専攻で教員免許取得ができるよう、教免の課程認定申請を行い、認可されました。

■入学定員の変更（変更分のみ）

《学部》

工学部建築学科（定員70名、3年次編入5名）設置に伴い、以下の通り入学定員を変更するため届出しました。（H22. 4. 28届出）

工学部建築学科 70名（新設）

総合情報学部

社会情報学科 70名→80名（10名増）

建築学科 80名→0名（募集停止）

また、近年の学科の充足率を鑑み、理学部応用数学科・化学科、工学部知能機械工学科の入学定員を変更しました。

理学部応用数学科 85名→95名（10名増）

〃 化学科 75名→70名（5名減）

工学部知能機械工学科 60名→55名（5名減）

《大学院》

工学研究科生体医工学専攻（定員6名）・建築学専攻（定員8名）設置に伴い、以下の通り入学定員を変更するため届出しました。

（H22. 4. 28届出）

工学研究科

機械システム工学専攻 14名→13名（1名減）

電子工学専攻 13名→8名（5名減）

情報工学専攻 13名→10名（3名減）

知能機械工学専攻 8名→7名（1名減）

生体医工学専攻 6名（新設）

建築学専攻 8名（新設）

総合情報研究科

情報科学専攻 7名→6名（1名減）

シミュレーション科学専攻 4名→3名（1名減）

生物地球システム専攻 7名→6名（1名減）

社会情報専攻 7名→6名（1名減）

■学費の一部改訂

平成23年度より、総合情報学部の学費を一部改訂するため届出しました。

就職活動支援

■就職進路ガイダンス・各種セミナー

ガイダンスを3年次・修士1年次生時に6回実施、4年次・修士2年次生時に1回実施で計7回行いました。また、マナーセミナー、メイクアップセミナー、業界セミナー等を時期に応じて開催しました。

1年次生、2年次生の低学年に対してのガイダンスも各年次毎に数回行い、3年次生に行うガイダンスへスムーズに移行出来るようにしました。



■就職筆記試験対策講座・公務員試験対策講座

3年次生とM1次生の就職試験対策として、就職筆記試験対策講座を実施しました。また、2、3年次生を対象に公務員試験対策講座を実施します。就職筆記試験対策講座との整合性・学習内容の整理を行った上で開催・実施し、企業希望者と公務員希望者の実状に即した内容の提供を検討しました。

■合同企業説明会

学生が企業の採用担当者と面談する、学内合同企業説明会を開催しました。

また、企業人事担当者と教職員との情報交換会である就職懇談会を岡山・東京・大阪・広島の各会場で開催しました。

■就職支援マガジンの発行

進路や就職に対する、意識の充実・向上のため、就職支援マガジン「ME(MAGAZINE FOR EMPLOYMENT)」シリーズ、vol. 0～4を発刊しました。また、各年次において、ガイダンスで活用・解説しながら、入学時から一貫した指導を行いました。

■就職・進路懇談会

4年次生、3年次生とその保護者を対象に「就職・進路懇談会」を実施しました。また、各ゼミ担当教員と学生本人、保護者の3者で、就職環境の現状を伝えるとともに、就職を含む進路、成績などの相談会を実施しました。

■「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラム

就職部の取組「地方理工系大学における迅速で組織的な就職支援システムの構築」が文部科学省平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラムに採択され、就職支援システムを中心とした、2年目の事業を計画・実行しました。

また、既卒者用のプログラムを追加しました。

平成23年度入試

本学の入学者受入方針は、本学が持つ研究領域の学習を強く希望する受験生と、高度な研究をめざす受験生の確保です。平成23年度入試では早期の入試で本学への入学意識を固めた生徒への、入学前のアドバイス・教育をさらに強化しました。

また、受験生の立場に立った、受験関係書類・入学関係書類の改訂、継続した情報提供を実施しました。

■専願制入試

主に本学・学部学科での学習を強く希望する受験生を対象とするため、AO入試・専願入試においては、受験生へアドミッションポリシーの提示などにより、学科内容の再確認を促し、課題や面接を活用しています。

■一般入試

一般入試では、多様な受験生の能力に対応するため、4科目型から1科目型まで多彩な入試方法を採用し、適正に評価する工夫をしています。

広報に関すること

■シンボルキャラクター

広報戦略のシンボルとなるキャラクターが「たんQくん」に決定しました。本学のコンセプト



トを表現するコミュニケーションシンボルとして、広報活動に活用しました。

■中期戦略2年目 「内容訴求」ステージへ

本学の教育・研究内容を広く知らしめるために、大学案内の全面改定を実施します。「マーケットイン」の感覚に立ち、本学の魅力を再確認し、広報をいたしました。

■関連高校との高大連携強化

生徒の夢を紡いで実現に導く高大連携のシステム作りに、広報の視点からの貢献を試みました。

■県内唯一の理工系私立大学としての使命

中長期的な視点に立ち、一般市民・小中学生を対象としたセミナー・レクチャーを引き続き展開し、本学の地元での位置づけを確固たるものにすることを目指しています。

人事・組織

■新学部長・新研究科長 就任

平成22年4月より、理学部長には高嶋恵三教授、工学部長には林紘三郎教授、総合情報学部長には濱谷義弘教授が就任しました。

なお、研究科長は、岡山理科大学大学院研究科長選考に関する申し合わせに基づき、学部長が兼務しました。

■事務組織の改組

平成22年4月より、組織の簡略化・効率化を図り、学生サービス向上を図るため、従来の教務部、学生部、資格取得支援・教職学芸員センターを統合し、学務部（教務課・学生課・留学生課・資格取得支援課）へ、経理部の会計課・用度課を統合し経理部経理課へ改組しました。

また、庶務部に庶務課、秘書課を置き、新たに大学の現状把握と評価を行い、将来計画を立案する評価企画課を設置しました。

主な行事

4月 3日	入学宣誓式
4月 4日 ～8日	新入生・在学生オリエンテーション
4月17日	就職進路懇談会
5月15日 ～16日	皐月祭
6月20日	オープンキャンパス
7月 7日	七夕エコナイト
7月27日 ～8月6日	定期試験
8月 7日 ～8日	オープンキャンパス
9月14日	後期オリエンテーション
9月18日	教育進路懇談会（本学）
9月26日	オープンキャンパス
11月 3日	特別推薦入試 専門学科・総合学科特別推薦入試Ⅰ期、Ⅱ期
11月13日 ～14日	推薦入試
11月21日 ～23日	半田山祭（大学祭）
11月24日	OUSフォーラム
12月19日	加計学園特待生推薦入試
1月15日 ～16日	大学入試センター試験
1月25日 ～2月7日	定期試験
1月30日 ～2月1日	一般入試前期SA・SAB方式
2月19日	一般入試前期SB・B1方式
3月20日	学位記授与式
3月22日	一般入試後期

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成22年5月1日現在)

研究科・学部・学科名		入学定員	入学者数		収容定員	在学者数		秋期入学 ※	
			留学生	社会人		留学生	社会人		
大学院	理学研究科(博士)	13	5		39	12	1	1	
	理学研究科(修士)	76	76		152	176	1	1	
	工学研究科(博士)	5	2	1	15	9	5		
	工学研究科(修士)	61	58	3	122	100	5		
	総合情報研究科(博士)	2	1		6	6		3	
	総合情報研究科(修士)	25	21	1	50	33	3		
大学院 計		182	163	5	384	336	15	5	0
理学部	応用数学科	85	119		340	435			
	化学科	75	74	1	300	261	1		
	応用物理学科	70	80		285	251	1		
	基礎理学科	75	99		305	308			
	生物化学科	85	114		345	419			
	臨床生命科学科	85	107		340	382			
	動物学科	40	47		120	153			
	計	515	640	1	2,035	2,209	2	0	0
工学部	バイオ・応用化学科	75	108	1	305	347	1		
	機械システム工学科	85	101	5	340	330	11	1	
	電気電子システム学科	70	78	4	280	268	11		
	情報工学科	85	100	3	340	354	4		
	福祉システム工学科 (募集停止)	—	—	—	—	0			—
	知能機械工学科	60	63	6	250	175	24		
	生体医工学科	60	57	11	240	179	28	1	
計	435	507	30	1,755	1,653	79	2	0	
総合情報学部	情報科学科	80	95	4	320	315	6		
	コンピュータシミュレーション学科 (募集停止)	—	—	—	—	2			—
	生物地球システム学科	70	84		290	276			
	社会情報学科	70	100	9	280	346	28		
	建築学科	80	56	4	340	213	8	1	
計	300	335	17	1,230	1,152	42	1	0	
学部 計		1,250	1,482	48	5,020	5,014	123	3	0
総合計		1,432	1,645	53	5,404	5,350	138	8	0
理学部理学専攻科		30	0		30	0			
教職特別課程		50	15		50	15			
留学生別科		60	18	18	60	18	18		

(単位:人)

■卒業者数等一覧

(平成22年度)

区分		修了者・ 卒業者	満期 退学	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
大学院	博士	3	2	8	3	38%	0	2	0	6
	修士	144		133	94	71%	8	6	4	6
学部		1,029		791	573	72%	160	164	76	150
教職特別課程		15		15	15	100%	0	0	0	0

※ 修業年限を超えて在籍している学生数(平成23年4月1日現在)

(単位:人)

主な就職先	新日本製鉄(株) 住友金属工業(株)	JFEスチール(株) 積水ハウス(株)	(株)三井住友銀行 西日本旅客鉄道(株)	日亜化学工業(株) (株)クラレ岡山事業所	他
-------	-----------------------	------------------------	-------------------------	--------------------------	---

■教職員数

(平成22年5月1日現在)

理事長・総長	学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	助手	別科講師	教員計
1	1	3(※)	172	65	26	3	2	1	273

(※)事務職員1名(総合企画局長)含む

事務職員	うち大学職員	うち本部職員
	196	113

(単位:人)

財務関係

■消費収支

(単位:千円)

科目	年度	22年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入		7,739,266	7,274,912
補助金収入		1,232,432	1,222,292
その他収入		369,615	515,197
帰属収入合計		9,341,313	9,012,401
基本金組入額合計		△ 128,161	△ 16,062
消費収入の部合計		9,213,152	8,996,339
人件費		4,940,606	5,173,147
教育研究経費		2,801,895	2,725,035
管理経費		559,371	523,963
その他支出		141,947	145,845
消費支出の部合計		8,443,819	8,567,990

■施設設備整備状況(抜粋)

主な施設関係

(単位:千円)

事業名	金額
土地購入 第11号館法面	30
半田山荘購入	44,570
土地	
建物	36,600
第十学舎 2.4.6階トイレ改修工事	35,000
第8号館 2.4階トイレ改修工事	17,000
第5号館 2.4階トイレ改修工事	2,750
第27号館4階製図室改修工事	1,650
第11号館屋上ネオンサイン買取	4,294
その他環境整備	2,954

主な装置・設備関係

(グリーン元素科学事業による大型機器)

事業名	金額
ガス、水蒸気、液化透過度測定装置	18,000
マイクロマンピレーター顕微システム	8,800
電気自動車購入	2,880

主な届出・申請関係

事業名	金額
理学部 動物学科 機器・器具 (創設費)	22,800
理学部 動物学科 学術雑誌 (創設費)	2,000
工学部 生体医工学科 学術雑誌 (創設費)	940
総合情報学部 建築学科 学術雑誌 (創設費)	875
グリーン元素科学共同研究	53,942
社会連携研究推進事業共同研究	64,948

平成22年度 事業報告

倉敷芸術科学大学

芸術と科学を融合し、芸術科学（インタラクティブ）の特徴を生かした、21世紀に必要な、考える知識基盤社会の構築に役立つ人材の育成を目指します。

地域になくてはならない大学です。



1. 建学の精神を守り、学園にふさわしい大学として、勝ち残りをかけ、教職員一致協力し、その魅力作りに努力しました。

2. 高大連携を密にし、小規模大学の良さをアピールし、対話型少人数教育の実践、地域になくてはならない大学をめざし整備充実を図りました。

3. 大学の諸規程を見直し、大学設置基準を守り、より効率的な運営を行いました。

4. 不採算部門は排除しつつ、将来、必要と見なされる部門は、極力その内容の充実を図り、社会のニーズに適した人材の育成に努めました。

5. 今年度は、特に産業科学技術学部の魅力作り、科学と芸術の融合、生命科学と健康・スポーツの推進方法に力を注ぎました。

6. 附属施設の「ヘルスピア倉敷」を生命科学・スポーツ・健康・東洋医学の実践場として蘇らせ、社会に開かれた施設として市民一般に開放しました。

7. 外国人留学生を受け入れ、国際交流が円滑になるように努めました。

倉敷芸術科学大学 学長 添田 喬

教学の充実

■キャリア教育

平成18年度から3年間、現代GPで培ったスキルをもとにさらに発展させ、「倉敷まちづくりプログラム」と位置づけ、前に踏み出す力、チームで働く力、考え抜く力を養うための職務体験を通して、課題発見力・実行力・状況把握力等、自らの役割を見つけ、積極的に自立・挑戦していけるキャリアの形成や社会人に求められる基礎的能力を高める教育を行いました。

■産学連携教育

倉敷市の推進する中心市街地活性化事業や経済産業省所管の戦略的中心市街地商業等活性化支援事業と協力し、都市づくり、産業、観光振興など地域と連携した人材育成を進めました。また、デザイン・映像分野では企業や行政機関から依頼される製品デザイン・CM等の製作により、学生の意欲向上となる生きた課題授業を行いました。

■高大連携教育

文部科学省SSH(スーパーサイエンスハイスクール)採択校の岡山県立玉島高等学校とはIT科学や生命科学分野、岡山県立総社南高等学校・香川県立高松工芸高等学校および広島県立熊野高等学校とはキャリ

ア教育や美術工芸分野、岡山理科大学附属高等学校とは美術工芸、デザイン、アニメーション、IT科学分野での連携を引き続き行ない、大学、高校間の境目のない接続教育と本学の教育理念「芸術と科学の協調」の実現に努めました。

■初年次教育

昨年度に続き、学習支援センターを中心に入学前の新生生に対し、課題をまとめた「Learning Support(入学前教育課題集)」や「学習支援センターだより」を作成、送付し、新生生が大学生活に期待や安心感を持ち入学できるよう、入学前準備教育を充実させました。1年次対象に前・後期基本英語、基本数学、基本化学、基本物理の4科目8単位を、また、後期には全学年対象の公務員試験(数学)対策講座を加えることにより、初年次教育を充実させました。

■留学生支援教育

今年度より、芸術学部・産業科学技術学部に加え、生命科学部にも留学生を受け入れられることとなり、専攻科目に正規科目として留学生のための日本語教育科目5科目10単位を追加しました。また、今年度入学した留学生を対象に「日本語能力テスト」を実施し、日本語の補習を必要とされた学生に「日本語補習授業」を開講し、留学生の日本語支援教育を行いました。

教育改革支援事業

■科学Tryアングル岡山

文部科学省「戦略的大学連携支援事業」の採択を受け最終の3年目にあたり、岡山、倉敷、津山の3都市にある岡山大学、岡山理科大学、津山工業高等専門学校と本学がそれぞれの科学教育研究資源を結集させ、5つのプロジェクト実行により、児童生徒、大学生、留学生、学校教員、社会人など、あらゆる人々を巻き込んで、多角的に科学を

見つめ、究め、育み、楽しめる人材及び地域の活性化に努めました。

■岡山オルガノン

平成21年度から23年度までの3年間文部科学省「大学改革推進事業」の採択を受け、岡山県内15大学が連携し、(1)教養教育の充実・共同FD・SD活動による「学士力」育成、(2)実践的キャリア指導・社会活動への参画による「社会人基礎力」育成、(3)地域連携による人材育成・地域貢献活動による「地域発進力」育成の3つの力の育成により岡山県から発信される地域創生型の人材育成に努めました。本学は、E-Learningで後期に開設する倉敷まちづくり科目を2科目提供しました。

■エネルギー環境教育

経済産業省資源エネルギー庁の「エネルギー地域拠点大学」として最終の3年目を迎え、教育プログラム、教材を開発し、人材を育成して行くと同時に、山陽地域の児童、生徒などにエネルギー環境教育の普及に貢献しました。また、2月12日にはヘルスピーア倉敷にてエネルギーと地球環境を考える「中国・四国子どもサミット2010」が254名の参加者のもと盛大に開催されました。

■キャリアデザインの発想による産学実践教育

平成22年度から26年度までの5年間文部科学省「大学生の就学力育成支援事業」に採択され、就職部・学生部・教務部・学習支援センター・健康管理センターの5つの部署が連携して、キャリア教育科目の段階的必修化により、人間関係形成能力・情報活用能力・将来設計能力・意思決定能力・職業適合能力の5つ能力を向上させ、就職率を伸ばす取り組みを行い、次年度に向けさらに進めていきます。

22年度新設学科・コース等

■留学生別科

昨年開設した神戸市東灘区御影にある神戸留学生別科の入学定員を1年コース190名、1年半コース80名に変更しました。また、本校の1年半コースを20名に変更し、アジア系留学生を中心に受け入れ、大学の講義に支障がでないよう、十分な日本語教育を行い、関連大学を含め、本学への進学を進めました。

■マンガ・アニメーションコース（メディア映像学科）

マンガとアニメーションの基本から応用までのすべてを学び、演出や演技をふまえた表現を提案できる漫画家、アニメーターやアニメーション作家を育成するコースを設置しました。

■企業経営コース、情報コース（起業経営学科）

ビジネス創造を通じてビジネスチャンスを事業化する方法と問題解決策を学習し、実際の実務経営から企業経営の成功に導く能力を身につけた人材を育成する企業経営コースを設置しました。また、国内外市場の変化の動向を見逃さないためにコンピュータを駆使して社会や市場を分析する手法を学び、時代のニーズを先取りするような人材を育成する情報コースを設置しました。

■臨床工学技士フライトCE資格科目の追加 （生命科学科）

阪神・淡路大震災後に航空医療の重要性が指摘され、救急医療用ヘリコプター（ドクターヘリ）の法制化もあり我が国の航空医療は急速に発展しています。そこで全国に先駆け医療用飛行艇における臨床工学技士フライトCE資格取得に向けた科目を追加しました。

■健康ケア関連科目の追加（健康科学科）

若年層から高齢層における健康を重視したライ

フスタイルの設計において、身体の管理・維持の方法を学び、スポーツジム、リハビリ・高齢者施設などで活躍できる人材を育成できるカリキュラム内容とするために科目を追加しました。

申請・届出関係

■学科改組

産業科学技術学部では、現在あるIT科学科と起業経営学科を統合し、平成23年度より経営分野と情報分野の領域横断的学習と研究を行う、技術知識を身に付けた企業経営者の育成や企業経営センスを身に付けた情報技術者を育成する経営情報学科を設置しました。

生命科学部生命科学科では、香りの調合や食品・化粧品等への配合を学び、また、香りの分析や合成、香料植物の栽培、香りの効果やアロマセラピーも併せて学び、広く香りの業界で活躍できる人材を育成するアロマ・サイエンスコースを設置しました。また、健康科学科の健康ケア分野を特化させ、平成23年度より東洋医学に基づくはり師・きゅう師の養成、健康運動やスポーツ活動における障害予防・身体ケアを担うアスレティックトレーナー(AT)の養成、メンタルケアのできるセラピスト、また、生活習慣病に対する予防策としての薬膳等を取り入れた食生活指導ができる人材等、総合医療的に人間の健康ケアができる人材を育成する健康医療学科を設置しました。

■留学生別科1年半コース募集停止

神戸留学生別科の1年半コースを平成23年度より募集を停止しました。なお、倉敷本校については、引き続き募集を行います。

課外活動

■バスケットボール部

(男子)

- (1) 中国大学バスケットボール選手権春季大会
第2位 (H22. 5. 1~4)
- (2) 全日本大学選抜バスケットボール大会
4名選抜 (H22. 7. 2~4)
- (3) 中国学生バスケットボール秋季大会
第2位 (H22. 10. 15~17)
- (4) 全日本大学バスケットボール選手権大会
出場 1回戦敗退 (H22. 11. 29~12. 5)
- (5) 国民体育大会
個人岡山県代表として出場 (H22. 9. 29~10. 4)

(女子)

- (1) 中国大学バスケットボール選手権春季大会
第3位 (H22. 5. 1~4)
- (2) 日本女子学生選抜バスケットボール大会
3名選抜 (H22. 7. 2~4)
- (3) 全日本大学バスケットボール選手権大会
中国地区予選3位 (H22. 10. 14~17)

■柔道部

- (1) 全日本学生柔道体重別選手権大会
男子100kg超級 1回戦敗退 (H22. 10. 8~10)
- (2) 中四国学生柔道体重別選手権大会
団体戦 第3位
男子100kg超級 第3位 (H22. 8. 27~29)

■空手道部

- (1) 中四国空手道選手権大会
個人形 第3位 (H22. 4. 24~25)

■アーチェリー愛好会

- (1) 国民体育大会
個人岡山県代表として出場 (H22. 9. 29~10. 4)

学生募集

■重点地区・加計グループ力を利用した広報戦略

兵庫県西部、北部および広島県東部を重点地区として各学部から担当者を決めて重点的に広報活動を実施しました。加計学園グループとして岡山県では岡山放送でのテレビ番組の放映、沖縄県でもテレビ放映と説明会の実施、福岡県では初の説明会を企画する等、加計グループ力を結集して効率的な広報活動を展開しました。

■ホームページの充実

①モバイル（携帯電話）版ホームページのバージョンアップ (<http://www.kusa.ac.jp/jei>)

昨年度新規開設したモバイル（携帯電話）版ホームページをさらに充実、学長コラム、副学長コラム、職員コラム、適正学科診断等を企画オリジナルキャラクターを利用してより高校生目線の展開を図りました。制作には、学生を起用し、より親しみやすいホームページ作りを目指し、学部学科情報、入試情報、オープンキャンパス案内等トピックスを一括送信できる体制を整備しました。

②留学生対象のホームページ

昨年度から継続して留学生へのアプローチを強化するため、海外からのアクセスで、学部学科情報、入試情報、学納金額、下宿情報などが入手できるように外国語版ホームページを整備し、優秀な外国人受験生、留学生の確保に努めました。

■大学トピックスのタイムリーな公開

高等学校進路・受験生に対して、本学が伝えたい情報を1枚のチラシにまとめて、タイムリーに大学の情報を広報できるよう展開しました。

■大学を活気づけるイベントの開催

科学系教員と芸術系教員により現在の教育や研究テーマを紹介するおしゃべりを通じて、相互の

学部・学科をよく知ってもらい大学を活気づけるため、学生・教職員が一体となった大学主催のイベント“Science+Arts Cafe”を開催しました。

就職活動支援

■就職ガイダンス・就職対策講座

就職ガイダンスを3年次・修士1年次生に年間15回、就職対策講座を3日間、公務員採用試験対策講座を5日間実施、新たに留学生に対するガイダンスの実施、さらには、4年次生による内定報告会をはじめ、企業担当者による業界説明会を4回、また、OB・OGの報告会を開催しました。

ガイダンスにマナー、メイクなども取り入れ、8月の就職ガイダンスでは、リクルートスーツでの出席を義務付け、早期から学生に就職に対する意識の向上を促しました。

■職業適性・就職実践模試

2、3年次生対象に職業適性自己理解テストを1日5回3日間、SPI適性模擬検査を2回実施し、自己分析を促しました。また、就職実践模試（START）エントリーシート攻略テスト6日間、模擬面接（個別、グループ面接）の指導を随時実施し、実践に備えました。

■就職支援

就職に対する意識の向上のために、各ガイダンス等を実施していますが、学生への求人情報を学内に掲示するとともに、各地で行われる合同説明会などの就職に関連した情報を含め、学内での企業説明会なども表示モニターを活用しながら、学生への就職関連情報の支援を行いました。

■就職懇談会

2月に企業担当者を招き、学生との個別面談を行う就職懇談会を実施しました。また、企業担当者と教職員が情報交換会を行う、加計グループ合同の就職懇談会（東京・広島・大阪）を開催しました。

■「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラム

就職部の取り組み「入学から卒業までの総合的就職サポート体制の構築」が平成21年度から23年度までの3年間文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラムに採択され、順次申請計画に基づき実行しました。

組織

■インターナショナルセンター

神戸留学生別科の留学生へのサービス向上を目的に、神戸留学生別科事務課を設置しました。それに伴い別科事務課は廃止し、本校留学生別科生については留学生課で対応しています。

■庶務部

学長の直轄の秘書室を、大学事務局の所管に変更し、事務的な相談・指示が円滑にできる体制とするため、庶務部に秘書課を移設しました。

主な行事

4月 4日	大学院(通信制)入学宣誓式
4月 5日	入学宣誓式
4月17日	霞祭
6月13日	オープンキャンパス
7月31日 ～8月1日	オープンキャンパス
9月 4日	教育懇談会(地方会場)
9月11日	教育懇談会(本学会場)
9月23日	オープンキャンパス
9月24日	留学生別科1年半コース入学宣誓式
9月26日	学部・通信教育課程学位記授与式
10月30日 ～31日	芸科祭
11月 4日	就職懇談会(東京)
11月23日	オープンキャンパス
2月14日	就職懇談会(本学)
3月 4日	就職懇談会(広島)
3月11日	就職懇談会(大阪)
3月23日	学位記授与式

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成22年5月1日現在)

研究科・学部・学科名		入学定員	入学者数			収容定員	在学者数			秋期入学 ※	
			留学生	社会人			留学生	社会人			
大 学 院	芸術研究科(博士)	4	3			12	6		1		
	芸術研究科(修士)	20	9			40	21				
	産業科学技術研究科(博士)	4	0			12	2		1		
	産業科学技術研究科(修士)	16	10			32	19				
	人間文化研究科(修士)	15	10	8		30	16	12			
	大学院 計	59	32	8	0	126	64	12	2	0	
学 部	芸 術 学 部	美術学科	(募集停止)	—	—	—	40	40		1	—
		美術工芸学科	40	31			125	109	1		
		メディア映像学科	30	44	5		130	136	5		
		工芸・デザイン学科	(募集停止)	—	—	—	30	23			—
		デザイン学科	30	46			95	118	2		
		計	100	121	5	0	420	426	8	1	0
	技 産 術 業 学 部 学 部	IT科学科	30	18	1		150	93	7		
		起業経営学科	30	19	13		120	110	65		
		観光学科	45	47	24		130	135	78	3	
		計	105	84	38	0	400	338	150	3	0
	生 命 科 学 部	生命科学科	45	52			220	235			
		健康科学科	60	60			240	240			
		生命動物科学科	65	82			266	307			
		生命医科学科	45	63			130	165		1	
		計	215	257	0	0	856	947	0	1	0
学部 計		420	462	43	0	1,676	1,711	158	5		
通学制 合計		479	494	51	0	1,802	1,775	170	7	0	
大 学 院 (通 信 制)	芸術研究科(修士)	10	2		1	20	4		2		
	産業科学技術研究科(修士)	20	0			40	1		1		
	人間文化研究科(修士)	30	3		3	60	9		8		
	計	60	5	0	4	120	14	0	11	0	
学 部 (通 信 教 育 課 程)	産業科学技術学部	(募集停止)	—	—	—	900	23		10		
	計	—	—	—	—	900	23	0	10	0	
通信制 合計		60	5	0	4	1,020	37	0	21	0	
総合計 (通学制+通信制)		539	499	51	4	2,822	1,812	170	28	0	
留 学 生 別 科	留学生別科	50	30	30	—	60	51	51	—	20	
	神戸留学生別科	270	14	14	—	310	50	50	—	30	
	留学生別科 計	320	44	44	0	370	101	101	0	50	

※ 秋期入学については、5月2日以降(平成22年5月2日～平成23年3月31日)に入学した者です

(単位:人)

■卒業生数等一覧

(平成22年度)

区分		修了者・ 卒業生	満期 退学	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
大学院	博士	2	1	0	0	0%	0	1	0	0
	修士	26	-	7	6	86%	8	4	0	0
学部		381	-	254	205	81%	27	85	18	20
大学院(通信制)		6	-	-	-	-	-	0	0	0
学部(通信教育課程)		5	-	-	-	-	-	3	0	4
留学生別科		81	-	-	-	-	77	5	1	0

※ 修業年限を超えて在籍している学生数(平成23年4月1日現在)

(単位:人)

主な就職先	JFEスチール(株)西日本製鉄所、日亜化学工業(株)、名古屋製酪(株)、(株)河合楽器製作所(株)ハローズ、(株)ホテルグランヴィア岡山、菅原硝子工芸(株)、(株)福岡動物医療センター 警視庁、東京消防庁 他
-------	---

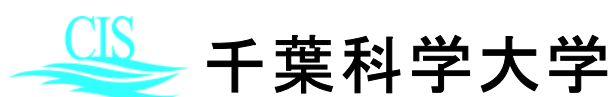
■教職員数

(平成22年5月1日現在)

学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	助手	別科講師	教員計	事務職員
1	2	78	18	15	6	2	1	123	55

(単位:人)

平成22年度 事業報告



「健康で安全・安心な社会」の構築に
貢献できる人材の養成を行う



本学は、平成16年4月に開学し、6年が経過しました。昨年には大学院博士課程が設置認可され、大学としての体裁を整えることができました。

学生のひとりひとりの能力を最大限に伸ばすために教職員が一致団結して教育にあたり、学生の満足度を高められるよう、また地域との関わりを深め、存在感を高められるように努力します。

具体的には、

1. 薬学部と危機管理学部が協力して健康安全リスク危機管理プロジェクトをスタートさせます。
2. 大学基準協会による外部評価を受け、これによって本学の教育体制の一層の充実をはかります。
3. 学生の側に立った教育をして学生の満足度を向上させるようFD活動を強化します。

千葉科学大学 学長 赤木 靖春

教学関係

■博士課程（後期）の設置による大学院の充実

大学院では日本初の危機管理学研究科に博士課程（後期）を設置、また薬学では他大学に先駆け、薬科学研究科博士課程（後期）を設置して、教学面の充実を図りました。

■大学の目的、各研究科、各学部の目的

学園建学の理念に基づき、大学の目的を教育では『健康で安全・安心な社会の構築』に寄与できる人材の育成、研究では『健康で安全・安心な社会の構築』の探求、社会貢献では『地域と共生する大学づくり、平和で文化的な地域づくりへ参画』と定め、実施いたしました。

各研究科各専攻においても教育研究上の目的をそれぞれ定め、各学部各学科ではそれぞれ教育目標を設けて、それに向かって実施いたしました。

■薬学科5年次長期実務実習開始

薬剤師養成が6年制になったことに伴い5年次の病院・薬局での長期実習を開始いたしました。4年次の1月にOSCE試験とCBT試験には受験者全員が合格し、関東甲信越で病院実務実習、薬局実務実習を延べ5ヶ月間行いました。

6年制の第2期4年次生も、第5号館（講義・実験棟）2階にあるコンピュータ室でC B T試験対策を、O S C E室と講義室で、O S C E試験対策を行いました。

■航空・輸送安全学科施設設備の充実と特色ある講義の実施

昨年度からスタートした航空・輸送安全学科では実習用セスナ機、自衛隊から貸与のヘリコプター、操縦訓練用シミュレータなど教育研究用施設設備を充実させました。

また前期と後期の科目の中で、(株)ウエザーニューース、(株)小松製作所地雷撤去プロジェクト、J A Lのパイロットなど各界の第一線で活躍する方々を招き、オムニバス形式で30回、危機管理学部の新入生に対して将来への目的意識を持たせる講義を実施いたしました。

■大学基準協会での外部評価の実施

平成21年度に作成した自己点検報告書を、大学基準協会に提出して、外部評価（第三者評価）を受けました。

■教員免許状更新講習の実施

地域からの要望もあり、一昨年に引き続き教員免許状更新講習を実施いたしました。

講習科目

必修領域1講座 8月7日～8日（12時間）

「教育の最新事情」

選択領域9講座 8月9日～11日（1日3講座を3日実施）

「理科指導の体験実習講習①地層と構成鉱物の観察」

「薬と人間」

「成績処理に使える統計・役立つ情報」

「銚子特産物のカーボン・フットプリント(CFP) 計算を用いた環境教育プログラムの紹介」

「コミュニケーションの心理学」

「コンピュータ・シミュレーション体験実習」

「防災教育と救急救命」

「学校のリスク・危機管理研究」

「理科指導の体験実習講習②遺伝子研究の現在」

教育・学生支援事業

■学生支援推進プログラム

平成21年度から3年間の計画で採択された、文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラムへの取組を継続いたしました。取組は以下の6つの柱で構成していますが、昨年度は⑤の銚子周辺企業との連携強化に重点を置き、企業訪問、地元企業との交流会、地元就職希望者への企業説明会・バスツアーなどを実施いたしました。

- ①全学キャリア支援カリキュラムの整備
- ②個別面談指導の強化
- ③就職関連情報提供システムの運用
- ④内定取消等の学生への支援体制整備
- ⑤地元企業との連携強化
- ⑥学内合同企業説明会、企業との情報交換会

■教育・学習方法等改善支援事業の実施

図書館の取り組み「図書館機能の充実—開館時間の延長とWeb利用指導」に対して私立学校等経常費補助金特別補助の教育・学習方法等の改善支援が平成20年度に採択され、開館時間の延長、院生による職員対応時間外の利用相談実施、本の探し方等（初級）から参考文献の見方等（上級）までをWebページによる自習システム作成など着実に成果を上げて、昨年度は3年目のまとめを行うため、継続申請いたしました。

■今年度の教育・学生支援事業への申請

大学生の就業力育成支援事業へは危機管理学部からキャリア関連科目の再編を踏まえて申請し、採択されました。

学科・コース等新設

平成22年度より薬学部、危機管理学部に新たな学科・コースの設置を行いました。

薬学部

平成22年度	平成21年度
生命薬科学科	薬科学科
創薬科学コース	創薬科学コース
化粧品科学コース	化粧品科学コース
動物生命薬科学コース	動物生命薬科学科

危機管理学部

平成22年度	平成21年度
危機管理システム学科	危機管理システム学科
リスクマネジメントコース	リスクマネジメントコース
公務員コース	公務員コース
経済・経営コース	防災・安全学コース
航空・輸送安全学科	
パイロット・整備コース	
車両安全学コース	

■大学院博士課程のスタート

大学院修士課程の上に、薬科学研究科博士課程（後期）薬科学専攻と危機管理学研究科博士課程（後期）危機管理学専攻を設置、入学者を博士の薬科学専攻に3名、博士の危機管理学専攻に1名を迎え、大学院の充実を図りました。

■留学生別科のスタート

本学に留学生別科を設け、日本語能力が充分でない外国人に対して、1年間の日本語教育を行いました。全別科生に日本語能力検定試験を受験させ、2級以上の合格を目指し、大学講義の受講に支障のない学生を育てると同時に、地域との交流を推進いたしました。

平成23年度以降開設に向けて

■動物関係の学科新設と学科改組

薬学部の生命薬科学科動物生命薬科学コースと危機管理学部の動物・環境システム学科動物学コースを基礎とする、動物危機管理学科と動物・環境システム学科を基礎とする環境危機管理学科の2学科を危機管理学部へ平成24年度に開設するため、平成23年4月に設置届出書を提出いたします。

それに伴い、動物・環境システム学科を募集停止し、生命薬科学科についても学科内容、カリキュラムが変更になります。

また、薬学部薬学科（修業年限6年）が平成24年3月に第1期生を送り出すことに伴い、薬学研究科大学院博士課程（修業年限4年）を平成24年度から開設するため平成23年4月に設置届出書を提出いたします。なお、既設の薬科学研究科は、薬学研究科に名称変更します。

就職活動支援

学生に対する就職支援、キャリア支援、各種資格取得支援、就職先企業の開拓などを行います。特に、地元出身学生の増加に合わせて、地元企業に重点を置いて開拓を推進いたしました。

薬学科6年制の学生は5年次ですが、6年次での就職活動をスムーズに行えるようにガイダンスを行いました。また、平成21年度採択された学生支援推進プログラムについて、平成22年度も継続実施いたしました。

■就職支援

3年次生を対象に、就職活動を進める上で必要なテーマを取り上げる就職ガイダンスや、様々な業界を知ってもらうための業界セミナーを学内で開催します。また、3年次生（薬学科は5年次

生) 全員との個人面談を実施し、個別指導を行いました。

■インターンシップ

企業等に学生を派遣するインターンシップに取り組み、夏季休暇中に1～2週間の就業体験を実施いたしました。

■合同企業説明会

採用担当者と本学学生がブース別に面談する合同企業説明会を3回(12月、1月、2月)学内で開催いたしました。

■キャリア支援

キャリア支援講座やビジネスマナー講座などを開講し、自己理解やコミュニケーションの重要性などを学生に指導いたしました。

■公務員試験対策

入門講座、ベーシック講座(前期)、スタンダード講座(後期)、直前対策講座を開講します。国家Ⅱ種・地方上級レベル対応のeラーニングシステムを導入し、インターネットを利用した試験対策を支援し、業者主催模擬試験を学内で実施いたしました。

■各種資格取得支援

防災士、危険物取扱者、秘書検定、潜水士などの試験対策講座を開講し、資格取得試験を学内で実施いたしました。また、30種類以上の資格取得に対応するeラーニングシステムを導入いたしました。

■就職先企業開拓

様々な業種の企業を新たに訪問し、就職先の開拓を行い、特に銚子市周辺の地元企業の開拓に努めました。また、加計グループ5大学1短大共催の就職懇談会(東京、大阪、広島)を開催いたしました。

学生募集

日本初の危機管理学部を擁することを強みに、危機管理ができる薬学部をアピール、公務員など就職に強い大学も強調して、学生募集を行ないました。

■地元銚子市をはじめ、千葉県、茨城県の通学圏の高校に対する広報活動の強化

通学圏(60km圏内)の高校については、昨年同様に最重点校と位置づけ、高校訪問・出張講義・オープンキャンパス動員等の活動をより強化し、安定した入学者確保に努めます。そのために、千葉県、茨城県に支局長を1名ずつ増員し、お互いの学校行事に教職員が参加し合える密接な関係を築くように努力いたしました。

■教育提携校締結の拡大と関係強化

現在13校と協定を結んでおりますが、出張講義、オープンキャンパスへの動員要請は勿論、関係強化として千葉科学大学杯(女子バレーボール大会)の開催、参加要請を行い、PTA総会等への参加の働きかけも行なっております。また、入学式・卒業式などお互いの学校行事に教職員が参加し合える体制を作ることを継続しております。

■出張講義の拡大と内容の充実

進学説明会と並び、学外において高校生と直接話ができる出張講義は、年々実施回数を増やしています。今後は話す内容を教員と検討し、「高校生に夢を持たせる」内容で、多くの高校生に伝えていきました。

■E-広報の充実

アクセス数が年々増加傾向にある本学ホームページの内容をさらに充実するとともに、各業者の主力なWeb企画と連動することで、様々な受験者層に働きかけ、資料請求者の拡大を図りました。

■オープンキャンパスの充実

21年度は開学以来最高の動員数となりましたが、入学者に反映されませんでした。この反省を踏まえ、参加した高校生に「見せる」内容について、より充実していきたいと考え、「この大学で、この研究室で、こんな研究してみたい」という夢を持たせるための内容を検討しました。多くの高校生に見せたり、参加する内容で実施しました結果、昨年度を上回る参加者がありました。

■合格者の歩留り強化

合格者に各学科の礼状を送ると同時に、冊子（入学ガイド）で入学説明会の実施を案内し、親密な関係づくりによる入学者増をはかりました。

■その他

1) 地元との連携

市役所等とのタイアップにより、市民の本学に対する理解を深めていくとともに、併せて地域貢献にも努めました。

市民講座、サテライト講座の開催により、保護者、市民へ本学をアピールいたしました。

2) 常時学内を見学できる体制の整備

研究室前廊下に研究内容を表したパネルを設置して、いつ誰が来てもアピールできるように整備いたしました。

3) 受験生との親密な関係の構築

在学生と教員とで、学生の母校を訪問し、受験生に親近感を持たせることで、受験者数増をはかりました。

4) 塾へのアプローチ強化

近年増加している個別指導塾の中には、大手予備校と比べるとAO入試の指導に重点を置く塾も少なくないため、専願受験者確保のために働きかけを強化いたしました。

5) 各訪問高校別カルテ作成

高校訪問者の変更があっても各高校のデータが引き継がれるように各県別各訪問高校別にカルテを作成いたしました。

6) その他

各高校訪問担当者に各県ごとに目標入学者数（ノルマ）を設定して、入学者の確保に努めました。また、訪問先に岡山理科大学卒の教員がいる場合は必ず会いに行き、資料請求者にも会いに行くなどの広報活動を行ないました。

人事関係

■学長、副学長、学部長改選

平成21年度末任期満了に伴い、学長、副学長、学部長の改選が行われ、前副学長の赤木靖春氏が第2代学長に就任いたしました。また、副学長には教育研究担当として宮林正恭氏が、薬学部長・薬科学研究科長には浜名洋氏が、危機管理学部長・危機管理学研究科長には藤谷登氏が再任されました。今回新たに学長補佐が置かれ、木島孝夫氏が、就任されました。

■事務組織改編

平成22年度より、企画室を庶務部に統合して企画課に改編いたしました。

主な行事

4月 6日	在学生オリエンテーション
4月 7日	入学宣誓式
5月30日	オープンキャンパス
7月24日 ～25日	オープンキャンパス
7月29日 ～8月11日	前期定期試験
8月 7日 ～11日	教員免許状更新講習会
8月28日	オープンキャンパス
9月18日	教育進路懇談会（地方）
9月25日	教育進路懇談会（本学）
9月24日	後期オリエンテーション
10月 9日	オープンキャンパス
11月20日 ～ 21日	青澄祭（大学祭）
12月15日	合同企業説明会
1月26日 ～2月 8日	後期定期試験
3月25日	学位記授与式

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成22年5月1日現在)

研究科・学部・学科名		入学定員	入学者数			収容定員	在学者数			秋期入学 ※
			留学生	社会人			留学生	社会人		
大学院	薬科学研究科(博士)	5	3			5	3			
	薬科学研究科(修士)	10	8			20	26	1		
	危機管理学研究科(博士)	3	1			3	1			
	危機管理学研究科(修士)	5	11	1		10	17	4		
	大学院 計	23	23	1	0	38	47	5	0	
薬学部	薬学科(6年制)	120	101	4	1	785	612	9	7	
	薬科学科 (募集停止)		—	—	—	130	76	2		
	動物生命薬科学科 (募集停止)		—	—	—	80	52			
	生命薬科学科	50	35	3		50	35	3		
	計	170	136	7	1	1,045	775	14	7	0
危機管理部	防災システム学科 (募集停止)		—	—	—	130	65	16		
	環境安全システム学科 (募集停止)		—	—	—	170	145	16		
	危機管理システム学科	100	101	35		345	338	91		
	動物・環境システム学科	60	40	7		120	88	16		
	医療危機管理学科	80	86	1		180	166	4		
	航空・輸送安全学科	40	18	8		40	18	8		
計	280	245	51	0	985	820	151	0	0	
学部 計		450	381	58	1	2,030	1,595	165	7	0
総合計		473	404	59	1	2,068	1,642	170	7	0
留学生別科		40	39	39		40	39	39		

(単位:人)

■卒業生数等一覧

(平成22年度)

区分	修了者・ 卒業生	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
大学院	21	18	16	89%	3	1	1	1
学部	107	144	112	78%	27	0	0	5

※ 修業年限を超えて在籍している学生数(平成23年4月1日現在)

(単位:人)

主な就職先	東京消防庁、千葉消防局、警視庁、航空自衛隊(幹部候補生)、長野県庁、佐野市役所、日本ペイント(株)、東邦薬品(株)、白鳥製薬(株)、筑波大学付 他
-------	---

■教職員数

(平成22年5月1日現在)

学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	助手	別科講師	教員 計	事務職員
1	1	53	24	17	8	5	1	110	51

(単位:人)

財務関係

■消費収支

(単位:千円)

科目	年度	22年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入		2,606,722	2,438,930
補助金収入		386,085	342,004
その他収入		76,709	79,083
帰属収入合計		3,069,516	2,860,017
基本金組入額合計		△ 295,907	△ 64,005
消費収入の部合計		2,773,609	2,796,012
人件費		1,825,436	1,807,073
教育研究経費		1,267,752	1,171,046
管理経費		368,722	385,406
その他支出		4,346	770
消費支出の部合計		3,466,256	3,364,295

■施設設備整備 (抜粋)

(単位:千円)

事業名	金額
格納庫新築工事 317㎡ ※航空・輸送安全学科の実習及び航空機の格納施設として使用	51,219
駐車場整備工事 9,038㎡ ※銚子市から賃貸したマリナーキャンパス前用地を舗装して学生駐車場として整備	38,500
学内ネットワークシステムリプレイス	35,750
学内ネットワークシステムリプレイス設定作業	13,638
学内ネットワークシステムリプレイス保守料	19,612

(単位:千円)

事業名	金額
実習用セスナ機 (中古)	5,170
航空機操縦訓練用シミュレータ	2,993
探索用マイクロ스코プ	3,570
航空・輸送安全学科創設図書	1,100
高機能患者シミュレータ	8,264

平成22年度 事業報告

附 岡山理科大学附属高等学校

建学の理念の原点に立ち返って、これまで以上に、生徒・保護者・地域社会から信頼される学校づくりを推進します。



1) 生徒一人ひとりの学力を向上させ、満足のいく進路実現を保証します。

2) 礼儀正しく、品位ある生徒を育てます。

3) 教員の意識改革及び資質向上を図り、安心して子供の教育を任せられる学校であるとの評価を確立します。

学力向上と進路実現のため、授業改善・学習支援に取り組むとともに、関連大学との実効性のある高大連携を推進し、関連大学への進学者の増加を目指します。

品位ある生徒の育成のため、基本的な生活態度の確立(とくに挨拶の励行、身だしなみの指導、遅刻の防止、朝読書の実施)に努めます。

危機感をバネに、学校組織、学校運営を改革し、教職員の意識の活性化を図るため教職員研修にも力を入れ、教職員集団が、それぞれの持ち味を活かしながらチームワークを發揮し、充実した教育活動が実践できるように努めます。

信頼される学校づくりのため地域社会との交流の機会を増やし、それに加えて時代や社会のニーズに対応した科・コースの特色・魅力アップを実施していきます。

岡山理科大学附属高等学校 校長 橋爪 道彦

関連校との連携による質の高い教育の提供

■出張講義の活用

- ・進学理大コース (岡山理科大学全学科より)
- ・健康・スポーツコース
(倉敷芸術科学大学健康科学科より)
- ・アニメ・デザインコース
(倉敷芸術科学大学芸術学部より)
- ・生命動物コース
(岡山理科大学・倉敷芸術科学大学・岡山理科大学専門学校生命・動物系学科より)
- ・機械科、電気情報科
(岡山理科大学 工学部より)
- ・進学医療コース
(玉野総合医療専門学校・理大より)

■校外学習の推進

- ・岡山理科大学での情報系科目の受講
- ・岡山大学による高校生向け科目の受講
- ・科学の祭典等への参加
- ・倉敷芸術科学大学での実習 (アニメ・デザインコース)
- ・池田動物園・理専での実習 (生命動物コース)
- ・吉備国際大学短期大学部での受講 (通信制課程)
- ・玉野総合医療専門学校での見学実習
(進学医療コース)

学校内での学力向上取組

- ・朝の読書の実施
- ・シラバスの作成
- ・学校関係者評価の実施
- ・補習・諸検定試験の実施、模試の活用
- ・各学年毎に生徒・保護者対象の進路ガイダンスの実施
- ・英数学館高校との合同で河合塾による演習講座の開講
- ・灘高校の教員による夏期休特別講義の実施

生徒指導への取組

- ・朝のあいさつ運動の実施・休み明けの遅刻防止強化週間の設定
- ・PTAと協力しての保導活動（街頭保導・列車保導・バス乗車指導）の実施
- ・教育相談室・保健室と担任・生徒部・管理職との連携強化
- ・岡北セーフティネットを通じて地域との協力・連携強化

教職員への資質向上への取組

- ・研究授業の毎学期実施
- ・教職員・保護者対象の各種研修会の実施
- ・教職員・保護者対象の関連大学見学ツアーの実施
- ・予備校主催の受験指導講座への参加
- ・スーパーサイエンスハイスクール（SSH）申請は不採択となり、継続事項となる
- ・サイエンスパートナーシッププロジェクト（SPP）申請が採択される
- ・新学習指導要領への取組
- ・道徳教育計画の策定
- ・総合的学習計画の策定
- ・インターシップ実施計画の策定

22年度新設学科・コース等

■進学医療コース

少子・高齢化の中、医療従事者へのニーズが高まることを予想して、関連大学・専門学校医療関連学科との連携・協力のもと、進学医療コース（定員30名）を普通科に設置しました。

■アニメ・デザインコース（情報・デザインコース名称変更）

普通科情報・デザインコースをアニメ・デザインコースに名称変更しました。アニメ・デザインコースでは、デザイン分野に加えてアニメーションを取り入れることにより、Webデザイン等にも応用できます。倉敷芸術科学大学の芸術学部との連携も積極的に行いました。

■進学総合コース（普通コース名称変更）

普通科普通コースを進学総合コースに名称変更することにより、本校の他コース（特別進学コース、進学理大コースなど）との違いを明確にしました。

申請・届出関係

■特別進学コースの改革

特別進学コースは、国公立大学進学を目的として設置され、一定の進学実績を挙げています。本校科・コースの中でもっとも志願者数の多いコースであり、その多くは公立進学校との併願志願者で高学力層です。ここ数年このコースの志願者が減少していますが、その要因は他の私立高校が特別進学コースの特色化に力を注いでいて、そちらに志願者が流れていると考えられます。従って本校特別進学コースの魅力を高め特色化を図り志願者増を目指す事が急務であり、国公立大の医歯薬獣医系並びに難関国立大理系学部への進学を実現させるトップグレードクラスと国公立大学への進学をサポートするサクセスクラスを新たに設置し、成績上位者層の確保を目指しました。

課外活動

- ・アイススケート部フィギア競技でインターハイ国体において優勝。また、世界 Jr オリンピックにおいては銀メダルを獲得。
- ・アーチェリー部はインターハイ・国体において団体3位
- ・その他多くの部がインターハイに出場しました。

就職活動支援

早い時期からの進路目標確立のため、学年別・進路先別にガイダンス、講演会を計画、また各コースにおいても生徒、保護者対象に進路説明会を実施して、生徒の進路意識を高めると同時に生徒一人ひとりに適した進学・就職先を指導しました。

また、昨年同様に有名難関大学の指定校獲得のため、可能な限り大学訪問を行い、就職先ではより有名、優良企業の求人確保のため、企業訪問を実施しました。

生徒募集

入試広報部と中高入試広報室とが共同できめ細かい広報活動を行いました。また、3月下旬に入学生、在校生の状況確認、報告をするための中学校一斉訪問からスタートしました。7月、10月にオープンスクールを行いました。それとは別に8月に部活動中心のオープンスクールも行い勉強・スポーツ両面から紹介しました。その他学校説明会（中学校、塾、生徒・保護者対象）、入試セミナー等を開催し1人でも多くの生徒を獲得していきたいと考え、その内容は紹介資料が生徒一

人ひとりに行き渡るようセットし中学訪問をしました。また昨年同様DVDを作成し、高等学校だけでなく加計学園、グループの大きさを理解していただきながら募集をかけていきました。入試についても本校ならではの地方会場（本校、倉敷、玉野、高梁）を設け他校に無いことを遂行して行き、そのためにもニーズにあったコース、学科を考え、常に前を見据えた広報活動を展開しました。

主な行事

4月 8日	始業式
4月 9日	入学式
4月16日	交通安全講習会
4月30日	創立者の日
5月15日	PTA総会
6月22日 ～23日	球技大会
7月17日	第一回オープンスクール
8月31日	全校集会
9月22日	体育祭
10月 1日	文化祭
10月23日	第2回オープンスクール
1月27/28日	選抜I期入試
3月 1日	卒業式

生徒・教職員数

■在籍生徒数

(平成22年5月1日現在)

課程・学科・コース名			入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
全 日 制 課 程	普 通 科	進学総合コース		77		243
		特別進学コース		53		159
		中高一貫コース		22		58
		進学理大コース		57		166
		健康・スポーツコース	380	59	1,140	147
		アニメ・デザインコース		32		75
		生命動物コース		32		90
		進学医療コース		12		12
		普通科 計		344		950
		機械科	80	68	240	214
電気科	(募集停止)	—	(募集停止)	—		
情報科	(募集停止)	—	(募集停止)	—		
電気情報科	40	26	120	90		
全日制課程 計	500	438	1,500	1,254		
通信制課程 (広域)普通科					600	304
総合計			500	438	2,100	1,558

(単位:人)

■教職員数

(平成22年5月1日現在)

校長	教頭	教諭	教員 計	事務職員
(1)※	4	71	75	17

※校長は大学教員と兼務

(単位:人)

■卒業生数等一覧

(平成22年度)

区分	卒業生	就職希望者	就職者	就職率	進学希望者	進学者	進学率	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
		A	B	B/A	C	D	D/C			
全日制課程	403	78	67	86%	325	313	96%	15	0	2
通信制課程	111	7	7	100%	27	27	100%			

※ 修業年限を超えて在籍している学生数(平成23年4月1日現在)

(単位:人)

主な就職先	(株)サノヤス・ヒシノ明昌 水島製鉄所、JFEメニカル(株)倉敷事業所、三菱自動車工業(株)水島製鉄所、(株)豊田自動織機、(株)デンソー、(株)中国フジパン、(株)王将フードサービス 他
主な進学先	島根大学、岡山大学、香川大学、山口大学、慶応義塾大学、立命館大学、関西大学、同志社大学、岡山理科大学、倉敷芸術科学大学、千葉科学大学、吉備国際大学 他

財務関係

■消費収支

(単位:千円)

科目	年度	22年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入		803,881	797,548
補助金収入		390,868	386,938
その他収入		98,804	174,119
帰属収入合計		1,293,553	1,358,605
基本金組入額合計		△ 280,150	△ 153,289
消費収入の部合計		1,013,403	1,205,316
人件費		1,087,223	1,229,114
教育研究経費		262,876	244,701
管理経費		154,242	144,156
その他支出		52,871	57,531
消費支出の部合計		1,557,212	1,675,502

■施設設備整備計画（抜粋）

(単位:千円)

事業名	金額
笹ヶ瀬土地購入	177,492
50周年記念館新築工事	59,000
建仮 総額	(515,000)
硬式テニス場女子トイレ及び更衣室 整備	4,500
東寮旧館の解体	7,900

平成22年度 事業報告

岡山理科大学附属中学校

中高六年一貫教育により勉強と課外活動を両立させながら、六年後は全国のトップ大学および医歯薬獣系大学、関連大学へ進学させることを通じて、日本社会各分野のトップリーダーとなる人材を育成する。



中高六年一貫制による思い切った先取り教育に加え、①自習支援室（チューターによる支援強化）②トワイライト・セミナー（学外有力講師による大学受験指導）、の充実により、生徒一人ひとりに対するキメ細かいフォローを行い、超難関大学・医歯薬獣系大学への進学実績を向上させます。課外活動（部活動・生徒会）を活発化させ、健全な体力と充実した気力を兼ね備えた、バランスの取れた人間形成をはかる人づくり教育 Human Education を充実します。

岡山理科大学の支援により、理科実験を大幅に充実させることにより、理科教育に力を入れていきます。小学生向けの理科実験教室を定期的で開催し、「理科教育の理中」の特長を伸ばしていきます。

岡山理科大学附属中学校 校長 新倉 正和

教育の充実

■MEDICALクラス、PREPクラス

3年生から、学力強化を図るため、MEDICAL（医系進学）クラスとPREP（難関大学進学）クラスのクラス分けを行い、学力上位層の強化および下位層の底上げをはかりました。生徒一人ひとりに対するキメ細かいフォローを行った結果、3月卒業の第4期生は、全員希望通りの、難関国立・私立大学への進学、そして本校初の東京大学現役合格を果たす事ができました。

■「理科教育の理中」の特長の強化

岡山理科大学基礎理学科理数系教員コースおよび科学ボランティアリーダーGPの教育・活動の一環として、院生・学生を定期的に派遣してもらい、理科授業の中における実験の回数を大幅に増加させ、理解度向上をはかりました。

また、課外活動において、科学部やロボット研究部を立ち上げ、昨年を引き続き、学会やロボコンへの参加・受賞を目指しました。

新規事業

■人づくり教育 Human Education

知力を重んじる傾向が強い現代世相の中で、知・徳・体の調和の取れた優秀な人材を育成することが重要であり、Human Education の強化を再認識すべき時と考えます。関連校の実施状況を参考に、今年度より新しいHuman Education の試みを実施しました。また、位田隆久先生による論語教育にも着手しました。

■チューターによる自習支援室

昨年度に引き続き、放課後、自習支援室を設け、岡山理科大学の大学院生をチューターとして配置し、生徒の質問に答えるなど、学力向上を支援しました。特に、学力下位層については、指名補習も実施し、弱点強化をはかりました。

■学内外有力講師によるトワイライト・セミナー

昨年度に引き続き、高2・高3の学力上位層について、放課後、トワイライト・セミナーを開催し、学内外有力講師による大学受験指導を行いました。これにより、超難関大学・医歯薬獣系大学への進学実績を向上させました。

■イマージョン教育（英会話、芸術科目）

専任ネイティブ教員によるイマージョン教育（英会話、芸術科目）を継続・強化し、生活感覚の中から英語力を強化するとともに、グローバル・スタンダードを持ち、国際社会で活躍できる人材の育成をはかりました。

■教育交流協定の締結

昨年度インフルエンザ流行のため中断した南オーストラリアのバンクシャー・インターナショナルハイスクールへの海外研修を再開し、同校との教育交流協定を締結して、相互の交流を深めました。また、同校への海外研修の範囲を拡大する可能性を追求し、継続事業としました。

■校外研修、インターアクト活動の推進

これまで関連大学や関連専門学校への医療分野や芸術分野の研修を実施してきましたが、それに加えて人間力・自発力の向上を目的として、岡山理科大学の教育G Pの支援を受け、牛窓ヨットハーバーにおける段ボール製ボート作りを中心とした「ものづくり自然体験学習」等を実施しました。昨年度から、岡山北西ロータリークラブの支援でインターアクト活動を開始していますが、ミャンマーへの支援活動を継続するとともに、今後の活動支援として老人介護施設「済生会ライフケアセンター」でのケア活動を開始しました。

■新校章（シンボルマーク）

以前使用していた校章は、本校を「附中」と表現していたため、県下の他の附属中学の校章と間違われやすい難点がありました。

そのため、本校を「理中」と表現した新たなデザインに校章を変更し、平成22年度より運用いたしました。



生徒募集

■広報活動

生徒募集活動においては、塾及び小学校との連携をより一層深めるために、実施日を決めて教員が塾及び小学校への一斉訪問を実施しました。8月に開催したオープンスクールでは、実験教室、バレーボール教室、ソフトテニス教室、イマージョン教育の授業、講演会などを組み込むなど魅力ある内容にしました。また、学校案内をはじめ学内発行の新聞やPR冊子を、小学校及び小学校PTA並びに塾や町内会、ロータリークラブ宛にも発送し、学校のPR活動に努めました。体育祭並びに学習発表会の開催の案内も発送しました。町内会、ロータリークラブ等との連携を通して、地域に愛され親しまれる学校づくりに努めました。

■具体的な方策

- ①小学校の重点学区を設けて、学校案内や入試要項を6年生全員に配布しました。
- ②重点塾を設けて、実験教室の案内をひとあし先に配布し、重点塾を対象にした実験教室を行うなど、塾との関係を一層強化する努力を行いました。
- ③入試説明会やオープンスクールで医歯薬系に関する講演会を行いました。
- ④ソフトテニス部のジュニアチームに出向き、指導を行うなどして交流をはかると同時にPRを行いました。
- ⑤岡山シーガルズの河本監督と協力して、スポーツ少年団を回るなど、女子バレーボール部のPRに努めました。
- ⑥美術の授業で牛乳パックから手作りのハガキを作り、出身小学校にオープンスクールや近況報告を行いました。

■入試説明会

7月 5日 (月)	塾対象
9月15日 (水)	塾対象
9月17日 (金)	塾対象
10月 2日 (土)	
10月16日 (土)	
11月 5日 (金)	トワイライト
12月 4日 (土)	神戸、姫路

■オープンスクール

7月30日 (金)	9:30~12:00
8月26日 (木)	9:30~12:00
8月27日 (金)	9:30~12:00

■実験教室

7月30日 (金)	9:30~12:00
8月26日 (木)	9:30~12:00
8月27日 (金)	9:30~12:00
11月 5日 (金)	18:00~19:00

■学校見学会

12月 1日 (水) ~ 3日 (金)
1月20日 (木)

主な行事

4月 9日	入学式
5月29日	PTA総会、授業参観
7月29日	休み前集会
9月 1日	休み明け集会
9月11日	体育祭 (岡山ドーム)
9月30日	前期終業集会
10月4日	後期始業式
11月3日	学習発表会
12月24日	休み前集会
1月8日	休み明け集会
1月21日	百人一首大会
3月18日	義務教育修了式
3月19日	修了式
3月19日	海外研修 3/27まで

学生・教職員数

■在籍生徒数

(平成22年5月1日現在)

学校名	入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
岡山理科大学附属中学校	80	45	240	159

(単位:人)

■教職員数

(平成22年5月1日現在)

校長	教頭	教諭	教員 計	事務職員
(1)※	1	14	15	3

※校長は大学教員と兼務

(単位:人)

■卒業生数等一覧

(平成22年度)

区分	修了者	内部 進学者	その他	退学者・ 除籍者	休学者	留年者
岡山理科大学附属中学校	61	40	11	0	0	0

※ 修業年限を超えて在籍している学生数(平成23年4月1日現在)

(単位:人)

財務関係

■消費収支

(単位:千円)

科目	年度	22年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入		85,977	85,158
補助金収入		57,567	54,419
その他収入		4,283	25,353
帰属収入合計		147,827	164,930
基本金組入額合計		0	△ 373
消費収入の部合計		147,827	164,557
人件費		167,348	212,395
教育研究経費		35,843	35,506
管理経費		20,314	18,209
その他支出		0	0
消費支出の部合計		223,505	266,110

平成22年度 事業報告

岡山理科大学専門学校

建築と動物、そして魚のスペシャリストを養成。学生、保護者、高等学校、地域及び関連業界の皆様へ支持される学校を目指します。



「使命」

専門学校の使命は言うまでもなく、有為で即戦力となる卒業生を輩出することにあります。専門的な技術や知識の習得、検定や資格の取得をさせることと、人としてバランスの取れた人材の育成に力を注ぐことを、本校の「使命」とします。

「方針」

学校教育基本法の第三条に、「……学習の成果を適切に生かすことの出来る社会の実現が図られなければならない……。」とあります、われわれ教育に携わる者は何のために、誰のための教育であるかをしっかり認識する必要があり、それらを履行しなければならない責任があります。

教育は、社会にとって有益でなければなりません。これまで岡山理科大学専門学校ではそれらのことが最大限に活かされるよう頑張ってきました。今後も、今まで培ってきたノウハウを基に「教育をカタチ」にしたいと考えています。

岡山理科大学専門学校 校長 小林 正文

教育並びに施設の充実

■きめ細かい教育

チューター並びにサブチューターを中心とした教職員が学生個々を把握し、専門技術の習得はもとより、学生とのコミュニケーションを密にとりながら学習意欲の維持、メンタル面のサポート、就職活動の啓蒙等から満足度の高い学生生活のサポートを行いました。学生、保護者に対して専門教育の重要性並びに青年期の精神面や思考等について、学生対象の講演会も行いました。

■産官学連携の教育

昨年真庭市と締結した包括教育協定をもとにして動物系学科で「温泉入浴の動物に対する生理活性効果」の研究や、建築学科においては「温泉街の活性化プラン（例）」の提案などを実施し、本校と自治体との連携による共同研究および教育を実施しました。

これまでの動物の温泉入浴実験では、入浴後唾液アミラーゼ値は上昇し、5分以後低下していくなどストレス負荷状況が判明してきました。次年度は更に、入浴条件及び環境を変えての調査研究を継続して、皮膚や関節炎など疾病治療に繋がりたいと考えています。さらに、岡山県、岡山市が開催する動物愛護フェスティバルに積極的に参加する等をして、動物愛護啓蒙運動に参画しました。アクアリウム学科においては、企業との受託研究を積

極的に展開しながら、各種の実験データから実用的な水生生物の飼育・繁殖の学習を実施しました。

■男性用トイレの充実

老朽化した2校舎の男子トイレは全面的に改装し、明るく清潔感のある空間に創り変わりました。

■学生相談用応接室の整備

3校舎に学生の学習指導や個人面談ができる専用の個室を設け、教職員と学生のコミュニケーションを取りやすい環境を整えました。

■カウンセラーの配属

従来、精神的な悩みを抱えた学生は岡山理科大学等が招聘したカウンセラーに相談をしてまいりましたが、潜在的に悩みを抱えた学生も多いことから、本校に専門のカウンセラーを定期的に招聘し、学生並びに教職員の心の問題解決の糸口にしたいと考え、今年度より専門のカウンセラーを招聘しました。前期終了時までには13件の相談があり、学生のケアに努めることができました。今後も悩みなどがある学生の早期問題解消に繋げるため、できる限り利用するように呼びかけ、次年度も継続し学生生活の充実に努めます。

教職員の意識改革

■自己点検、自己評価 FD・SD

専任教員並びに非常勤講師教員を対象に実施している授業アンケートの結果を踏まえ、より良い授業が展開できるよう授業の改善指導を実施しました。

専任教員の授業担当時間を精査し、各職員の職位及び校務分掌を考慮し、教員の均等化を図りました。また、自己研鑽ができる時間を創出するよう配慮しました。

また、事務職員の対応及び施設設備等についてアンケートを実施し、学生の満足度アップに繋げ

るよう事務を改善しました。

教育環境の充実を高めるため、今年度も専任教員にアンケート調査を実施し、学科教育や学生生活に繁栄させていきます。

■コスト意識

人件費、光熱水費、教育・研究用消耗品について有効活用を図り、事ある毎に合理化、節約について啓蒙し、エコ教育に繋げるよう実施しました。

特に、電気使用量については節約を呼びかけ、効果をだしています。今後は屋上緑化の計画もあり、学校全体で検討していく予定です。

22年度新設学科・コース

■動物看護学科 3年制

職域の多様化と高度医療に対応できる動物看護師を養成して行くとともに、動物看護師の制度化（国家資格化）に対応するため、平成22年度より従来の2年制コースに加えて、3年制のコースを併設し、更に充実しております。

動物看護師は犬や猫等の小動物が家族同様に終生飼育を図ることとなったため、獣医療の外に幅広い専門技術と知識を備えることが求められています。高度医療臨床検査室など、施設充実により、3年制教育への対応を図ります。また、岡山県畜産研究所とインター実習の協定を締結するなど、職域の拡大に対応をできるようになりました。

学科創設関係

■新分野の学科創設準備

動物系の学科を立ち上げて8年が経過いたしました。今後とも発展が期待されるペット業界ではありますが、景気低迷等の影響から、近年苦戦を強いられております。

今後の理専の繁栄を期して、既存の分野とは全く異なる分野への進出を検討しました。

新学科の構想および検討会を外部関係者を交えて定期的に行ない、専門分野での情報収集をおこないました。

■学校周辺の地元を対象とした学校見学会

本校の教育内容を知って頂くことにより、更なるご理解・ご協力を賜るため、地元の方々を対象とした学校見学会を夏季に実施し、今年度9月に周辺地域住民との交流会を開催し、約40名の方が参加しました。本校の教育内容や方針について理解を示していただきました。

学生募集

■オープンキャンパス参加者の増加を図る

各種媒体やメディアの活用並びに一斉高校訪問を実施し、オープンキャンパス開催告知を充分に行い参加者増を図り、参加者は昨年度比 100.5%の参加である。

■きめ細かいフォロー

資料請求者、オープンキャンパス参加者へのきめ細かいフォローを実施し、受験率アップに結びつけることができました。

入試結果は全学科（専攻科・研究科含めて）全体で昨年比べ106%増になりました。

■メディア・地域へアピール

本校のトピックス、イベント等を積極的に新聞社、テレビ局への報道依頼を展開しました。また、自治体等の行事、イベントに参加し、地域の方々に対して、学校の教育内容などをアピールしました。また、岡山駅一番街通路の広告ブースが通行人から注目されるよう演出にも力を入れました。特に、今年度はテレビや新聞などメディアを活用し、番組「夢をかなえる加計学園」においては3.8%の視聴率を得ました。この結果、オープンキャンパスおよび入学者は若干増になったと考えられます。

■広報強化地域

建築、動物系において学生確保が期待できる地域を中心に積極的にメディア、高校訪問、説明会を駆使し広報活動を展開してまいりました。

広報業者との連携により、動物系及び建築系に興味のある高校域をリサーチ、分析してこれまでに受験していない高校などへも足を運び、積極的に説明会や体験授業を行なったことなどが、受験率アップに繋がったと考えます。

就職活動支援

■就職活動ガイダンス

1年生：7月 インターンシップの注意事項
11月 進路選択について
12月 情報収集と企業へのエントリー
3月 履歴書、面接について

2年生：6月 内定礼状の書き方

積極的に学生を参加させ、就職に有利になるように指導しました。

■就職支援

1年生の12月の段階で進路の希望調査を行い1月より第一希望の分野を決定していきました。動物系においても一般企業を希望する者は2月より直ちに就職活動を開始させ、学生の満足度の高

い企業への就職を目指すよう指導しました。動物系専門職への就職は3月以降のインターンシップへの参加により、第一志望への内定獲得を目指しました。

また、学生の就職意識啓蒙に係る人的増員と、就職相談を気軽にできるよう就職相談室への在中時間を設定しました。

新たに、就職先の改革を積極的に行ない、学生就職支援を行ないました。また、卒業後も就職や資格に伴う支援を強化しております。

今年度も建築系において、100%の学生が就職を早々と決定しております。動物系においても大方の学生が決まり、学校全体で94%の学生が就職先へ決めました。日本国全体で景気が悪く、東日本震災の影響などがあり、内定取り消しになった学生などを支援しながら、新しい就職先を開拓し、継続している状況です。

主な行事

4月 8日	入学式
4月12日	授業開始
7月20日 ～ 8月31日	夏季休暇
9月 6日～10日	前期末試験
10月 1日	後期授業開始
12月23日 ～ 1月 6日	冬期休暇
2月 1日～ 7日	後期末試験
3月20日	卒業式

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成22年5月1日現在)

課程・学科名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
工業 専門課程	建築学科(昼間部)	40	42	110	70
	建築学科(夜間部)	20	10	40	24
	福祉住環境デザイン学科	(募集停止)	—	—	—
	計	60	52	150	94
商業実務 専門課程	映像情報学科	(募集停止)	—	—	—
	計	(募集停止)	—	—	—
文化・教養 専門課程	動物看護学科 3年制	30	—	—	—
	〃 2年制	20	43	110	82
	トリミング学科	40	33	80	64
	ドッグトレーニング学科	40	39	80	77
	アクアリウム学科	40	34	80	74
	計	170	149	350	297
文化・教養 一般課程	トリミング学科	(募集停止)	—	—	—
	ドッグトレーニング学科	(募集停止)	—	—	—
	アクアリウム学科	(募集停止)	—	—	—
	計	(募集停止)	—	—	—
合 計		230	201	500	391
建築学科専攻科		10	8	10	8
動物系総合学科研究科		10	15	10	15

(単位:人)

■卒業生数等一覧

(平成22年度)

区分	卒業生	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
岡山理科大学専門学校	199	157	148	94%	31	33	5	1

※ 修業年限を超えて在籍している学生数(平成23年4月1日現在)

(単位:人)

主な就職先	荒木組、トヨタホーム岡山、開成建設、池田動物園、島根県立しまね海洋館アクアス 岡山県動物愛護センター、日出美動物病院、津山獣医科病院、ペットサロン他 139
-------	---

■教職員数

(平成22年5月1日現在)

校長	副校長	教員	教員 計	事務職員
1	0	11	12	11

(単位:人)

財務関係

■消費収支

(単位:千円)

科目	年度	22年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入		335,147	317,996
補助金収入		356	444
その他収入		5,048	5,938
帰属収入合計		340,551	324,378
基本金組入額合計		△ 3,750	△ 547
消費収入の部合計		336,801	323,831
人件費		206,051	212,427
教育研究経費		85,290	91,464
管理経費		30,895	35,599
その他支出		2,201	2,434
消費支出の部合計		324,437	341,924

■施設設備整備計画（抜粋）

(単位:千円)

事業名	金額
2校舎男子トイレ全面改修工事	2,970
4校舎1階ピロティ排水工事	200
第3アクアポンプ・クーラーの上屋	1,200
動物看護実習用 流し台設置	850
平行定規（製図台）	1,580
5.5 t水槽クーラー	427
ディスカッション顕微鏡	360
実験机2500×1400	400

平成22年度 事業報告



玉野総合医療専門学校

21世紀の医療・保健・福祉のスペシャリストを育成します。



「学・術・道」の校是のもと
21世紀社会の医療・保健・福祉・介護のニーズに応えられる
専門職種育成を目指して、国家試験の全員合格を目標に全学を
挙げて取り組みます。

本年度も引き続き教育支援の一環として基礎学力の向上、動機付けのためのリメディアル教育を取り入れます。

地元根付いた学校を目指し地域（玉野市）との連携を深め、進めます。

入学定員確保のため教職員一丸となって広報・宣伝活動に取り組みます。

玉野総合医療専門学校 校長 高井 研一

教学環境の整備

■教育支援の実施

新入生の学力を把握するために4月に学力検査を実施し、基礎学力向上のために副校長および教務主任を中心として、リメディアル教育を実施し、1年前期に特別授業を行いました。

■新入生宿泊研修の充実

平成22年度も新入生合同宿泊研修の内容を充実させ、学科を超えた交流を行い、コミュニケーション能力および仲間意識を強め連帯感を持たせる目的として行いました。

■国際交流・海外研修の実施

国際交流において海外の教育交流提携校からの研修生を受入れ、学生主導による交流を図り国際理解・協力的一端を経験させました。

また、異なった環境での医療・福祉を推進しているアメリカ（提携校）においてその技術・環境に触れることにより国際感覚をもった医療・福祉の人材の育成を目指し、海外研修を行いました。

■教育・進路懇談会の実施

平成20年度から「教育進路懇談会」を実施していますが、今年度も内容をより充実させ、学年ごとに内容を見直し、学校と保護者の間で連絡が密に取れるように複数日で実施しました。

■健康管理室の設置

在学生には、様々な悩み等を抱えた学生がおり、カウンセリング等を充実させるために、健康管理室を設置し、保健室の機能を強化しました。

学内環境整備

■スクールバスの運行維持

通学学生の増加に伴い、平成20年度から岡山～本校、平成21年度から倉敷～茶屋町駅～本校スクールバスを維持し、通学環境の整備を行い、今年度も昨年同様に運行しました。

■中庭の整備

4学科の学生が交流できる場所として中庭の環境美化を行いました。

平成23年度以降に向けて

■介護福祉学科の改編（24年度計画）

「介護福祉士」の国家資格について、現在までは養成校の課程修了により国家試験が免除されていましたが、平成24年度より国家試験の受験が必要となるため、適応したカリキュラムに変更する予定です。

また、平成24年度以降、実務経験者が国家試験を受験する際、受験資格として3年以上介護等の業務に従事した者であって厚生労働大臣の指定した養成施設等において6ヶ月（600時間）以上の介護福祉士として必要な知識及び技能を修得していることが条件になります。実務者が国家試験を受けるための養成施設等の認可が受けられるよう、専攻科等の設置を検討します。

地域との連携等

■教育協定の締結

玉野市内等の高校と教育協定を締結することで高校との連携を図り、地域に根付いた専門学校を目指します。今年度は、市内中学校2校と市内の高等学校1校で福祉の授業を実施しました。

■公開講座の充実

本校では、毎年公開講座を実施していますが、平成21年度から玉野生涯学習センターとの連携により、玉野市民等に対して保健・医療・福祉分野の情報を幅広く積極的に提供します。今年度は、8月に実施しました。

■玉野市内の行事への参加

玉野市で開催される「たまの港フェスティバル（5月）」「かつからか祭り（8月）」等の行事に学生および教員が積極的に参加しました。

また、10月に開催した学校祭「優勇祭」に市民団体等の参加を呼びかけた結果、多くの市民に来校していただきました。

学生募集

■指定校の見直し

平成22年度入試から、全学科で指定校入試の指定校を見直しました。（県内推薦入試を推薦入試（併願）とするため岡山県内及び山陰の高等学校を中心に見直しました。）

■推薦入試（併願）の見直し

平成23年度入試から推薦入試（併願）Ⅰ期を11月に実施、推薦入試（併願）Ⅱ期を12月（県内入試から変更）に実施しました。

■職業訓練生委託事業の実施（介護福祉学科）

雇用対策の一環として平成22度も引き続き岡山県が実施する職業訓練事業（介護福祉士養成）の受け入れ先となり、介護福祉学科へ訓練生を受け入れました。

■緊急雇用創出基金事業による介護福祉士養成プログラム等の受入（介護福祉学科）

岡山県及び倉敷市が実施する緊急雇用創出基金事業の介護福祉士の受入を実施しました。

■教育協定の締結

玉野市内及び近隣の高等学校と教育協定を結ぶべく積極的な交流に努めました。

■入学金減免制度実施（専願学生確保のため）

- ・指定校で合格した学生の入学金減免制度を実施しました。
- ・玉野市内の高等学校からの合格（専願）した学生への入学金減免制度を実施しました。

■スクールバス運行の維持

平成20年10月から岡山駅西口～本校間、平成21年11月から倉敷駅～茶屋町駅～本校間を

運行しています。学生に非常に好評であり、平成22年度入試においても効果がありました。また、岡山市内・倉敷市内・玉野市内においても本校をアピールすることができました。



引き続き、動く看板として運行を維持しました。

■学校案内ビデオ（DVD）の一部変更作成

本校の紹介は、平成21年度から紙ベースのパンフレットと、動画（DVD）等を取り入れることにより受験生に本校の魅力を伝えることが出来ました。平成22年度は、内容等を一部変更し、より魅力的なDVDを作成しました。

■オープンキャンパスの充実

平成21年度オープンキャンパスの開催日数、及び内容を充実させ高校生に対して魅力あるイベントにしました。

また、山陰方面からの受験者が増加したため、平成22年度も引き続き送迎のためのバスを運行し好評を得ました。

■テレビCM等の実施

オープンキャンパスの周知及び専願制入試学生確保のため5月から8月の期間集中的にテレビCM等を実施しました。

また、本校の認知度を上げるため、茶屋町駅・児島駅・倉敷駅・西大寺駅に設置している看板を維持しました。

就職活動支援

■保健看護学科

就職担当教員による県内全域の主たる病院施設等への訪問、及び既卒者による各自の就職先の紹介、卒業前と就職後の各自の意識の違いなどに関する意見交換会を開催しました。

■介護福祉学科

就職担当教員による県内施設への求人状況の問い合わせを行いました。

■理学療法学科・作業療法学科

就職担当教員による県内外の本校実習施設及び病院施設等への問い合わせを行いました。

人事について

■新校長就任

岡田茂校長の任期満了に伴い、新たに高井研一氏が玉野総合医療専門学校校長に就任しました。

主な行事予定

4月 5日	入学式
4月 6日	前期講義開始
7月26日～ 8月 6日	前期試験期間
8月 7日～ 9月 5日	夏期休業
9月27日	後期講義開始
10月23日～10月24日	学校祭
12月24日～ 1月 5日	冬季休業
1月20日～ 2月 4日	後期試験期間
3月10日	卒業式
3月22日～ 3月31日	学年末休業

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成22年5月1日現在)

課程・学科名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
医療専門課程	保健看護学科	40	49	160	136
	理学療法学科	40	45	160	166
	作業療法学科	40	25	160	109
	計	120	119	480	411
教育・社会福祉 専門課程	介護福祉学科	40	38	80	57
	計	40	38	80	57
合 計		160	157	560	468

(単位:人)

■卒業生数等一覧

(平成22年度)

区分	卒業生	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
玉野総合医療専門学校	88	88	69	78%	0	33	10	39

※ 修業年限を超えて在籍している学生数(平成23年4月1日現在)

(単位:人)

主な就職先	岡山大学病院、倉敷中央病院、心臓病センター榊原病院、 岡山済生会病院、独立行政法人国立病院機構岡山医療センター	他
-------	--	---

■教職員数

(平成22年5月1日現在)

校長	副校長	教員	教員 計
1	2	29	32

事務職員
7

(単位:人)

財務関係

■消費収支

(単位:千円)

科目	年度	22年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入		484,502	476,042
補助金収入		28,038	26,681
その他収入		23,724	14,090
帰属収入合計		536,264	516,813
基本金組入額合計		△ 320	△ 794
消費収入の部合計		535,944	516,019
人件費		360,224	344,107
教育研究経費		168,462	194,475
管理経費		37,364	38,818
その他支出		535	55
消費支出の部合計		566,585	577,455

■施設設備整備計画(抜粋)

(単位:千円)

事業名	金額
健康管理室改修工事	1,100
コンピュータ室のパソコンリニューアル	4,100

平成22年度 事業報告



倉敷 食と器 専門学校

「笑顔を作る 魔法の手」

本校は、食材の栽培・厳選から調理、そして商品化できる「シェフ」と「パティシエ」の養成。また、食べる楽しさと作る喜びを伝えることのできる「食の魔術師」の育成。



本校は、専門的な技術と知識を備えた職業人の育成を目指した「食と器」の専門学校です。資格取得はもちろんのこと、隣接する「倉敷芸術科学大学」とコラボレートして、他の専門学校には見られない「特化」した本校独自の教育を推進します。また「食べること」、「作ること」の幸せを伝えることができる人材の育成を目指した教育を行いました。

さらにインターンシップを利用して、就職に対する意識の向上と就職活動への早期取り組みを指導しました。

倉敷 食と器 専門学校 校長 川上 雅之

特徴のある教育内容

■全学科共通

新入生に対し、ホテル日航倉敷にてウェルカムランチパーティーを開催し、将来“食”や“器”の世界での活躍を目指す学生に対し一流の空間で一流のおもてなしを味わうことで在学中の学びに対するモチベーションアップを図りました。

また、敷地内にある土地を利用し、仮称『クラセナーガーデン』を造り、ハーブや莓など食材の栽培を学生の教育活動の一環として実施し、単なる調理師やパティシエではなく、食材から吟味できる人材の養成を図りました。

■高度調理フードコーディネート学科

1年次には、料理の基本である和食と洋食の基礎を学び、また調理師免許取得に必要な栄養、衛生、理論の習得を行いました。

2年次に、和食、洋食に加え中華料理、寿司や麺・パスタの実習を受けます。実習の中で400種類を超えるメニューを作ることで、より実践に即した調理師の育成に努めました。

また自分の作る料理に合う皿や碗の制作実習も講義に取り入れており、料理と器のコラボレートに関する知識の習得を行いました。

■高度製菓製パン学科

1年次に国家資格である製菓衛生師受験資格取得のための専門科目を履修し、2年次に国家試験を受験し、在学中に資格取得を目指しました。

2年次になると、洋菓子やパンだけでなく、和菓子も学ぶことができ、個性あふれるパンやスイーツが作れるように業界の第一線で活躍するプロの講師からテクニックを学び、さらにアメ細工などの彩りの鮮やかさを表現できるような技術習得も視野に入れた教育を行いました。

またパンやスイーツと器の調和を学ぶために器のデザインや制作実習も行いました。

■器デザイン学科

卒業後は、将来陶芸家やガラス工芸家をはじめとする、ものづくりの職人の育成を目指しています。22年度から、cafe雑貨専攻と陶磁・ガラス専攻の2つの分野で自分の興味もてる専攻で学ぶことができます。

cafe雑貨専攻では、雑貨をデザインから制作までできる知識や技術を身に付けることを目標とします。

また陶磁・ガラス専攻ではフードコーディネーターの講義を受けることで、食の視点から器について幅広く学習し、デザイン力等を養います。

学生募集計画

■高校訪問計画

本校入学者の出身高校を中心に、高校訪問を強化し、入学者の確保に努めました。

また、教職員全員でそれぞれの高校訪問のための地域を担当し、広報活動を行いました。

■オープンスクールの充実

年間20回の体験実習の中に、専任教員による体験実習だけでなく、特別講師による体験実習も取り入れることで、生徒に実習の楽しさを知ってもらい、オープンスクール参加者を増やしました。

また、参加者に対して、学校のトピックス等をDMで送り、リピーターの確保に努めました。

■無料スクールバスの増便

スクールバスを井原、倉敷、新倉敷、茶屋町駅より運行しており、学生のほとんどが利用しております。今年度は、玉野方面の志願者確保のために現行ルート of 拡大を図りました。

■高校への出張講義の実施

高校への出張講義を実施することにより、各学科の特色をPRして志願者の増加に努めました。

■高校での説明会の増加

進路ガイダンスを通して、高校での単独の説明会による志願者の増加に努めました。

■学校紹介用DVDの作成

本校の紹介については、パンフレットやホームページを使用していますが、動画等を取り入れ、在学生の声により、本校の魅力を伝えるために、広報用DVDを作成しました。

就職活動支援

■就職活動の意識向上

インターンシップにより、就職に対する意識向上を図り、就職指導に生かして行きます。学生に対しても説明会を開催することで就職活動の早期取り組みに結びつけ、就職率向上に対処していきましました。

■就職ガイダンスの開催

外部のガイダンスに積極的に参加していくとともに、学内のガイダンスの回数を増やし、1年次には心構え・言葉遣い・社会生活の基本等、2年次には就職試験指導・模擬面接等きめ細かく指導しました。

主な行事

4月 5日	入学式
7月30日	前期試験 (～ 8月 5日)
8月 6日	夏季休業
9月 6日	後期開始
10月30日	文化祭 (～10月31日)
12月24日	冬季休業 (～ 1月 7日)
1月19日	後期試験 (～ 1月25日)
3月21日	学年末休業 (～ 3月31日)
3月23日	卒業式

人事について

伊藤敏夫校長の任期満了に伴い、新たに川上雅之倉敷芸術科学大学副学長が、校長を兼任いたしました。

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成22年5月1日現在)

課程・学科名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
衛生 専門課程	高度調理フードコーディネート学科	40	16	80	29
	高度製菓製パン学科	40	33	80	61
	計	80	49	160	90
文化・教養 専門課程	器デザイン学科	20	5	40	7
	計	20	5	40	7
合 計		100	54	200	97
高度陶芸ガラス創作研究科		10	0	20	1

(単位:人)

■卒業生数等一覧

(平成22年度)

区分	卒業生	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
倉敷 食と器 専門学校	40	38	33	86.8%	0	2	1	0

※ 修業年限を超えて在籍している学生数(平成23年4月1日現在)

(単位:人)

主な就職先	ホテルグランヴィア、アパホテル、岡山全日空ホテル、倉敷医療生活協同組合、柴田病院 (有)シャロン、(株)パールミッシュ、ル・フワイエ(有)、(株)絹和ペーカリー、(株)コロンパージュ、(有)フランセ 他
-------	--

■教職員数

(平成22年5月1日現在)

校長	副校長	教員	教員 計
(1)※	1	6	7

※校長は倉敷芸術科学大学副学長と兼務

事務職員
4

(単位:人)

財務関係

■消費収支

(単位:千円)

科目	年度	22年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入		108,436	93,288
補助金収入		203	260
その他収入		2,818	1,462
帰属収入合計		111,457	95,010
基本金組入額合計		△ 203	△ 347
消費収入の部合計		111,254	94,663
人件費		118,334	144,512
教育研究経費		63,001	63,951
管理経費		21,569	31,611
その他支出		128	1
消費支出の部合計		203,032	240,075